

平成30年度 みやざき小中学校学習状況調査 分析結果

目次

I	調査の概要		
	実施の概要	2
II	小学校の分析結果		
	1 小学校4年：国語	4
	2 小学校5年：国語	6
	3 小学校4年：算数	8
	4 小学校5年：算数	10
III	中学校の分析結果		
	1 中学校1年：国語	13
	2 中学校2年：国語	16
	3 中学校1年：社会	19
	4 中学校2年：社会	22
	5 中学校1年：数学	25
	6 中学校2年：数学	28
	7 中学校1年：理科	31
	8 中学校2年：理科	34
	9 中学校2年：英語	37



I 調査の概要

実施の概要

調査目的	県内の公立小・中学校及び中等教育学校（前期課程）、特別支援学校の小・中学部における児童生徒の学習の定着状況を把握・分析し、その結果をもとに、学校における学習指導の充実・改善等に役立てる。
実施日	平成30年4月17日(火)～18日(水)
調査対象校	市町村立小学校 のべ232校 市町村立中学校 のべ125校 五ヶ瀬中等教育学校（前期課程） 宮崎西高等学校附属中学校 都城泉ヶ丘高等学校附属中学校 特別支援学校〔3校〕（小学部2・中学部3）〈調査の実施を希望する学校〉 宮崎大学教育学部附属小学校 / 宮崎大学教育学部附属中学校
対象学年 調査人数	〈小学校〉 第4学年（10,081人） 第5学年（10,347人）
	〈中学校〉 第1学年（9,015人） 第2学年（9,180人）
調査実施内容	<p><学習状況調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校第4学年：国語、算数 ○ 小学校第5学年：国語、算数 ○ 中学校第1学年：国語、社会、数学、理科 ○ 中学校第2学年：国語、社会、数学、理科、英語 <p>※ 学習指導要領に示されている各教科の目標に即し、それぞれの教科の観点に沿った内容で調査を実施する。</p> <p>※ A問題：基礎的・基本的な知識・技能の定着状況をみる問題（各教科20問）</p> <p>※ B問題：知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力をみる問題（各教科5問）</p>

- ※ 4ページ以降の各教科の分析結果は、以下のデータに基づいて作成しております。
- 設問別正答率：「正答数」の合計÷生徒数（％）
 - 「分野・領域」における正答率の数値は、各設問の正答率のデータを基に算出したものです。多少の誤差が生じていることを御了承ください。

Ⅱ 小学校の分析結果

- 1 小学校4年：国語
- 2 小学校5年：国語
- 3 小学校4年：算数
- 4 小学校5年：算数

1 小学校4年：国語

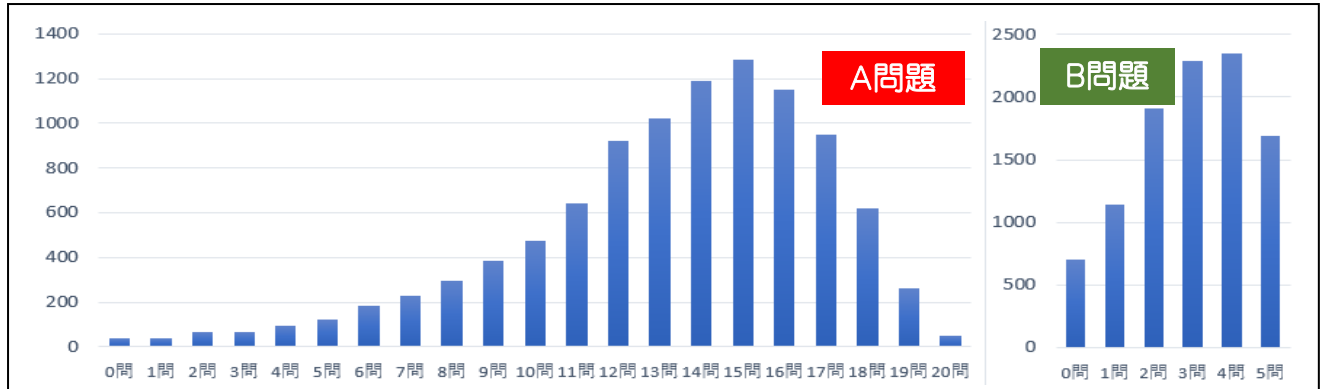
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**64.8%**である。「話すこと・聞くこと」については、平均正答率が**78.5%**と高くなっている。一方、「書くこと」については、平均正答率が**49.8%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低く、無解答率が高かったB問題の**問五**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
		66.3		58.8		78.5	49.8

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)	
	番号	大問	中間 小問						
A	1	1	1	内容の理解	叙述をもとに登場人物の心情をとらえることができる。	読むこと	77.9	0.5	
	2		2	内容の理解	叙述をもとに内容を正しく読むことができる。	読むこと	81.1	2.7	
	3		1	①	内容の理解	中心となる語や文をとらえて、文章に書かれていることを理解することができる。	読むこと	69.3	1.8
	4	②		内容の理解	中心となる語や文をとらえて、文章に書かれていることを理解することができる。	読むこと	72.2	2.3	
	5	2	国語辞典の用法	国語辞典の使い方を理解することができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	51.2	2.1		
	6	3	1	説明の理解	大事なことを落とさないように聞くことができる。	話すこと・聞くこと	90.7	2.0	
	7		2	スピーチで気を付けること	相手によく伝わるように気を付けて話すことができる。	話すこと・聞くこと	91.2	1.3	
	8			スピーチで気を付けること	相手によく伝わるように気を付けて話すことができる。	話すこと・聞くこと	86.6	1.4	
	9	4	1	接続語の活用	文と文のつながりや文末表現に注意して書くことができる。	書くこと	25.5	1.3	
	10		2	文章の推敲	よりよい表現に書き直すことができる。	書くこと	82.0	1.8	
	11	5	1	語句の類別	様子をあらわす言葉を理解することができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	48.3	1.6	
	12		2	ローマ字の知識	ローマ字で正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	36.7	9.0	
	13		3	(1)	漢字の読み	文脈に則して漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	89.9	4.0
	14			(2)	漢字の読み	文脈に則して漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	74.8	4.3
	15			(3)	漢字の読み	文脈に則して漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	61.9	3.4
	16			(4)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	79.0	5.0
	17			(5)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	68.2	5.3
	18			(6)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	62.4	5.6
	19		4	筆順の理解	正しい筆順で漢字を書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	28.9	3.9	
	20		5	「折れ」の書き方	毛筆において「折れ」の書き方に注意して書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	47.8	4.6	
B	21	1	1	話し合いにおける司会者の役割	話し合いにおける司会者として、意見を整理しながら進行ができる。	話すこと・聞くこと	56.3	1.6	
	22		2	話し合いにおける発言の工夫	体験をもとに、相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら話すことができる。	話すこと・聞くこと	71.6	1.9	
	23		3	話し合いにおける決定事項	話し合いにおける司会者として、話し合いをまとめることができる。	話すこと・聞くこと	74.5	4.3	
	24		4	報告文を書くためのメモをつくる	取材したことのメモをつくるために適切な見出しを書くことができる。	書くこと	51.2	4.0	
	25		5	報告文を書く	取材したことをもとに条件に合わせた報告文を書くことができる。	書くこと	40.6	18.3	

特徴の見られた問題例（小学校4年 国語）

B問題 問五 正答率が低く、無解答率が高かった問題

川上さんのグループでは、「駅前せい肉店」で取ざいたことをもとに、ほろくする文章を書くための「組み立てメモ」をつくりました。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【組み立てメモ】

調べたこと

- 「駅前せい肉店」のよさ
- 「せんもん店」のよさが知れたかった。
- お店の中を見学
- お店の人とお客さんにインタビュー

お店の方の話

- お店が新せん：お店の人が、せい肉工場から直せつ新せんなお肉を仕入れてくれる。ひつような分だけむだなく買える。お客さんがほしいりようだけ、重さはかって売ってくれる。
- お客さんの話
- お店の人が親切：おすすめのお肉やひつようなりようなどを教えてくれる。

見出し

- おいしいお肉を食べてもらうための工夫や努力をしている。
- みんなにもぜひ買いたい物に行っている。

その後、川上さんのグループは、「組み立てメモ」をもとに、「ほろくする文章」を書きました。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【ほろくする文章】

「駅前せい肉店」のよいところ

二はん（川上・大石・木下・田中）

わたしたちは、「駅前せい肉店」を取ざいました。取ざいた理由は、お肉だけ売っている「せんもん店」のよさについて知れたからです。

お店を見学して分かることをメモしたり、分からないことをお店の人やお客さんにインタビューしたりして調べました。そして、分かったことをもとに、よさについて考えました。

わたしたちが見つけた「駅前せい肉店」のよいところは二つです。

一めは、「お肉が新せん」ということです。お店の方の話では、お店の人が直せつせい肉工場に行つて、新せんなお肉をえらんで仕入れてくるそうです。

二つめは、

A

三つめは、「お店の人が親切」ということです。お客さんの話では、作りたりりよう理に合うおすすめのお肉やひつようなりようなどを教えてくれるそうです。

「駅前せい肉店」では、お客さんにお肉をおいしく食べてもらうために、いろいろな工夫や努力をしているのだなあと思いました。みなさんも、ぜひ、「駅前せい肉店」に買い物に行つてみてください。

問五 Aには、「駅前せい肉店」のよいところが入ります。【組み立てメモ】をもとに、次のじようげんに合わせて書きましょう。

（じようげん（書くときのやくそく））


- 【ほろくする文章】の中の「二つめ」「三つめ」と同じじようげん、二つの文に分けて書くこと。
- 「二つめは」にじつげんじようげん、五十文字以上、七十文字以内じよめて書くこと。

正答（例） 「ひつような分だけむだなく買える」ということです。お店の方の話では、お客さんがほしいりようだけ、重さははかって売ってくれるそうです。

ねらい	取材したことをもとに条件に合わせた報告文を書くことができる。	平均正答率 (%)	40.6
		無解答率 (%)	18.3

☆分析
 正答率は、40.6%であり、B問題の中で最も正答率が低い。また、無解答率も、18.3%と他の問いと比較しても極端に高い。条件に合わせた報告文（求められた文）を書くことについて課題がある。

☆指導のポイント
 視点を明確にしたメモの取り方を身に付けさせるとともに、メモから文章化する段階的な指導を丁寧に行うことが大切である。特にメモ（文）の組立て方や文章構成についての基礎的な事項に関する指導が必要である。



- よいメモとそうでないメモを比較して違いに気付かせること
- 児童の実態に合わせた（身近なこと、平易なもの）文例を示して、よりよい文章構成について理解すること
- まとまりを端的に表した見出しを短冊にまとめて、正しく並びかえさせるなど、文の構成を捉えられるようにすること

こんなことに気を付けて指導するといよ！

- 条件に合わせて書いているか、みんな（グループ等）で話し合うことで見直す力を高めさせる。 → 身に付けさせたい力に合わせて、条件を付加する。
- メモと報告文を読み比べて、表現の違いに気付かせたり、よいモデルを実際に提示したりすることで、児童に比較する力や視点をもたせる。
- 日常的な指導として、「レポート、案内文、報告文」などを実生活と関連付けながら書かせたり、書く目的や意図を意識させたりして取り組ませる。

2 小学校5年：国語

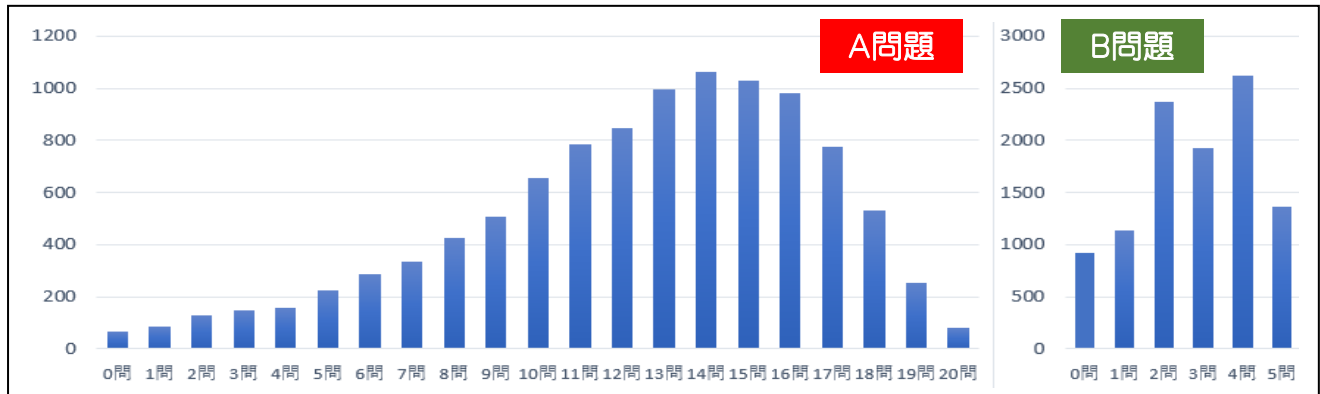
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**60.7%**である。「読むこと」については、平均正答率が**66.5%**と高くなっている。一方、「話すこと・聞くこと」については、平均正答率が**52.9%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**三問二**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
		61.9		56.1		52.9	56.0

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

領域	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)	
	番号	大問	小問						
A	1	1	1	内容の理解	叙述をもとに、登場人物の心情を想像することができる。	読むこと	60.8	0.4	
	2		2	①②	内容の理解	叙述をもとに、登場人物の関係を捉えることができる。	読むこと	69.4	0.5
	3	2	1	接続語の活用	文と文のつながりに注意して書くことができる。	書くこと	38.3	4.1	
	4		2	文章の推敲	よりよい表現に書き直すことができる。	書くこと	61.1	5.5	
	5	3	1	内容の理解	中心となる語や文を捉えて、文章に書かれていることを理解することができる。	読むこと	80.1	1.5	
	6		2	内容の理解	指示語を的確に捉えて、文章に書かれていることを理解することができる。	読むこと	55.9	9.9	
	7	4	1	アイ	グループでの話し合い	話し合いの話題をしっかりと意識して参加することができる。	話すこと・聞くこと	64.3	5.8
	8		2	司会者の役割	話し合いにおいて司会者として話題からそれぞれに話を進めることができる。	話すこと・聞くこと	63.3	4.7	
	9		3	話し合いにおける質問	質問の内容に応じて誰に尋ねればよいかを考慮することができる。	話すこと・聞くこと	36.0	6.7	
	10	5	1	(1)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	77.4	6.6
	11			(2)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	82.4	5.4
	12			(3)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	61.8	7.9
	13			(4)	漢字の読み	文脈に則して漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	71.7	7.0
	14			(5)	漢字の読み	文脈に則して漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	93.4	4.5
	15			(6)	漢字の読み	文脈に則して漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	83.7	4.4
	16	2		ローマ字の知識	ローマ字で正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	39.3	14.1	
	17	3	ア	筆順の理解	正しい筆順で漢字を書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	28.9	5.5	
	18		イ	筆順の理解	正しい筆順で漢字を書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	37.3	5.3	
	19	4	主語	主語・述語の理解	文の内容に則して、主語と述語をとらえることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	54.5	6.8	
	20		述語	主語・述語の理解	文の内容に則して、主語と述語をとらえることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	77.9	6.8	
B	1	1	①	お楽しみ係からのお知らせの清書	話し合いをもとに下書きに付け加える内容を考えることができる。	話すこと・聞くこと	44.7	4.8	
			②	お楽しみ係からのお知らせの清書	話し合いをもとに下書きに付け加える内容を考えることができる。	話すこと・聞くこと	55.4	5.4	
	23	2		お楽しみ係からのお知らせの清書	分かりにくい長文を簡潔書きで分かりやすくまとめることができる。	書くこと	73.8	6.5	
	24	2	1	話の要点をメモに取る	聞き取ったことを整理しながらメモに取る。	話すこと・聞くこと 書くこと	79.5	6.0	
	25		2	自分の考えの発表	課題と字数を踏まえながら、経験等を基に自分の考えを発表することができる。	話すこと・聞くこと 書くこと	27.3	14.1	

特徴の見られた問題例（小学校5年 国語）

A問題 問二 正答率が低かった問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

① どうしてみんなでいっしょに勉強するのでしょうか。学校にはいろいろな子どもたちが通っています。国語のとくいな子、体育がとくいな子、マンガが好きな子、気の強い子、泣き虫な子……。ほんとうにみんな、個性が豊かです。このようにせい質のちがう、さまざまな人やものがあることを「多様せい」といいます。

② 多様せいがあるというのは、とてもいいことなんです。たとえば、野球のとくいな子は、クラスに野球の苦手な友だちがいたら、教えてあげられますよね。反対に苦手な算数をとくいな友だちから教えてもらえます。ひとりひとりが持っているからこそ、たがいに助けあえるわけです。

③ 集団の中で、いろいろな人と関係しながらくらすことを「社会せい」といいます。新学期のクラスがえてはじめていっしょになった子と、どうやって友達になりますか。また、友達とけんかしてしまったとき、どうやってなかなかおすれはいでしよう。そういう経験はたくさん積んで社会せいを身につけていくことも、学校での大切な勉強なのです。

④ なぜかといえば、学校の外の世の中にはもっと多様せいがあって、年れいも仕事もしゅ味も、人それぞれだからです。世の中をさらに広げて、日本全体や世界のことを考えてみれば、多様せいということの意味がよくわかるでしょう。世界には、肌やかみの毛の色、言葉、信じているしゅう教などがちがう人たちが住んでいます。自分とちがうからといって、おたがいにきらっていたら、世界中が戦争だらけになってしまいますよね。

⑤ だから、自分とちがう人がいることをみとめて、ちがいを受け入れたうえで、たがいに支えあっていることがほんとうに大事なのです。

⑥ もちろん、だれもが、人と上手につきあえるわけではありませんが、それでも自分なりにうまくつきあう方法を覚えたほうがいいですよね。

⑦ 学校はそのためのトレーニングの場でもあるのです。

（補足説明）「日本のもと 学校」による一部表記を改めたところがある。

文章中に「学校の場」とありますが、「そのため」とは何のためでしょう。文章中の言葉を使い、次の条件に合わせて書きましょう。

【条件】
○ 「人」、「方法」という言葉を入れて書くこと。
○ 文章の最後は、「ため」という言い方で書くこと。

正答（例）	自分なりに人とうまくつきあう方法を覚えるため
-------	------------------------

ねらい	指示語を的確に捉えて、文章に書かれていることを理解することができる。	平均正答率（%）	55.9
		無解答率（%）	0.6

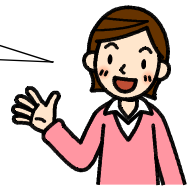
☆分析

正答率が著しく低いわけではないが、説明的な文章を読み取る上で、基礎的・基本的事項である指示語が示す内容を、正しく読み取る能力の向上が望まれる。

☆指導のポイント

指示語が示す内容を正しく読み取る学習をさらに充実させるとともに、指示語が示す内容を文章で書かせる指導も大切である。具体的には次のような内容の指導の充実が必要である。

- 指示語が示す内容を必要な言葉を落とさずに正しく読み取ること
- 文末表現に注意しながら、指示語が示す内容を正しく文章で書くこと



例えばこんな指導の工夫改善が大切！



- 指示語が示す内容を読み取る際に、教科書にサイドラインを引いて指示語と結ぶなど視覚的に理解できるようにする。
- 条件を与えて指示語が示す内容を書く活動を行う。
（条件とは）
 - ・ 内容に必ず入れなければならない言葉を指定して書かせる。
 - ・ 方眼ノートを利用して、字数を制限して書かせる。
 - ・ 文末表現を指定して書かせる。

3 小学校4年：算数

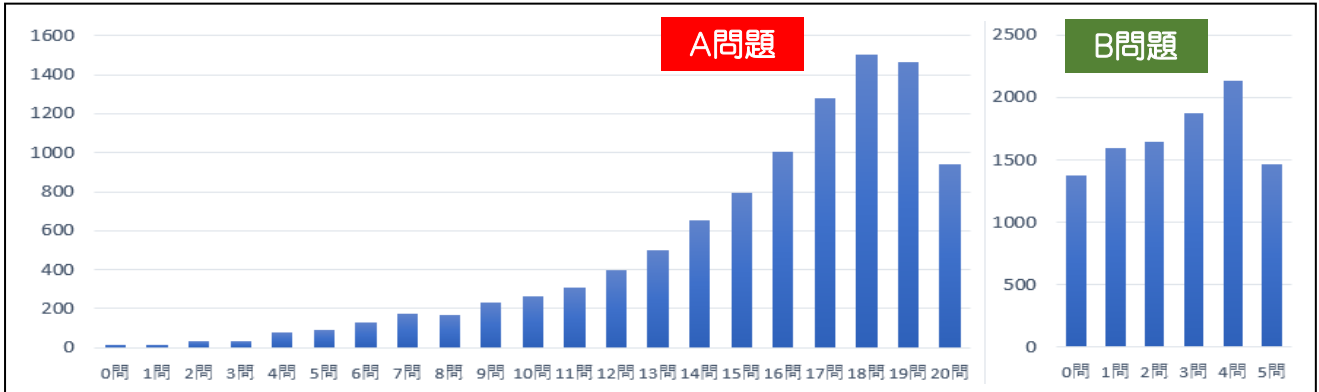
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**72.5%**である。「**図形**」については、平均正答率が**77.2%**と高くなっている。
 一方、「**量と測定**」については、平均正答率が**65.1%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かった**A問題の2 (3)**と、平均正答率が低く、無解答率が高かった**B問題の2 (2)**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	数と計算	量と測定	図形	数量関係
		77.5		52.3		72.9	65.1

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

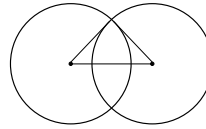
分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問					
A	1	1	(1) 何百のたし算	3位数と3位数の加法の計算ができる。	数と計算	95.3	0.2
	2		(2) 小数のひき算	小数と整数の減法の計算ができる。	数と計算	70.8	0.8
	3		(3) 1けたをかけるかけ算の筆算	2位数と1位数の乗法の計算ができる。	数と計算	82.0	0.5
	4		(4) あまりのあるわり算	あまりのあるわり算の計算ができる。	数と計算	88.3	0.9
	5		(5) 分数の大小	分数の大小を不等号を使って表すことができる。	数と計算	88.2	0.4
	6		(6) まとまりを考えて	まとまりをつかって計算する方法を考えることができる。	数量関係	77.7	2.6
	7		(7) 一億までの数	大きな数を数字で正しく表すことができる。	数と計算	62.1	2.7
	8		(8) 繰り下がりのある筆算	繰り下がりのある3桁の筆算のしかたについて理解している。	数と計算	59.9	3.5
	9	2	(1) 立方体の辺の数と頂点の数	立方体の辺の数と頂点の数を求めることができる。	図形	81.2	1.4
	10		(2) 正三角形のかき方	正三角形をコンパスと定規を用いて作図することができる。	図形	81.4	2.4
	11		(3) 二等辺三角形	円の特徴を正しく理解し、それを使って二等辺三角形をかき出すことができる理由を選択できる。	図形	62.6	3.4
	12		(4) 円	正方形に内接する円の半径を求めることができる。	図形	83.4	3.7
	13	3	(1) 長さの単位	kmとmの関係を使って、長さの換算ができる。	量と測定	69.7	2.4
	14		(2) 時間を求める	時計を見て、手伝いをした時間を求めることができる。	量と測定	83.6	3.2
	15	4	(1) 重さを求める	kgをgになおして米の重さの求め方を考えることができる。	量と測定	69.6	3.3
	16		(2) 時間の単位	秒と分の関係を使って時間を表すことができる。	量と測定	88.8	4.0
	17	5	(1) 棒グラフのかき方	棒グラフで表していることを正しく読み取ることができる。	数量関係	83.0	5.7
	18		(2) 棒グラフのかき方	棒グラフを正しくかくことができる。	数量関係	83.4	10.9
	19	6	(1) わり算を使って	何倍かを求める計算のしかたを考え、わり算を使って鉛筆の本数を求めることができる。	数量関係	69.9	4.8
	20		(2) 口を使った式	口を使って式に表すことができる。	数量関係	69.5	6.3
B	21	1	(1) 実生活の場面における活用	1まい券を18枚買ったときの代金を求めることができる。	数と計算	67.1	4.0
	22		(2) 実生活の場面における活用	11まいつづりの引きかえ券を1つと、1まい券を7まい買ったときの代金を求めることができる。	数と計算	56.6	5.1
	23		(3) 実生活の場面における活用	3つの券の買い方のうち、料金が一番安くなるものを選ぶことができる。	数と計算	58.6	4.5
	24	2	(1) 時間を求める	表の時刻から、食事の時刻を求めることができる。	量と測定	34.6	7.2
	25		(2) 道のり	公園から店と交番の前を通過して家に帰るのが近い理由の説明を考えることができる。	量と測定	44.4	14.4

特徴の見られた問題例 (小学校4年 算数)

A問題 2 (3) 正答率が低かった問題

次の図のように、半径が等しい長さの2つの円を使ってかいた三角形は、二等辺三角形になります。そのわけとして、もっともふさわしいものを、次のア～エから1つえらび、記号で答えましょう。

- ア 2つの辺の長さが円の半径になるから。
- イ 3つの角の大きさがみんな等しくなるから。
- ウ 直径は半径の2倍であるから。
- エ 3つの辺の長さがみんな等しくなるから。



正 答	ア
-----	---

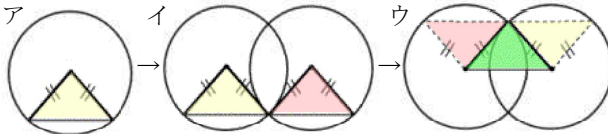
ねらい	円の特徴を正しく理解し、それを使って二等辺三角形をかくことができる理由を選択できる。	平均正答率 (%)	62.6
		無解答率 (%)	3.4

☆分析 平成29年度の類似問題においても、正答率が低い傾向が見られた(正答率44.2%)。正答率が低かった原因として、①既習の内容である二等辺三角形の性質と円の性質を関連付けて考えることができない、②文章、図、選択肢を関連付けて題意を読み取ることができない、③わけ(理由)を問われることに苦手意識がある等が考えられる。

☆指導のポイント



- ① 円の半径と二等辺三角形の2辺の関係をスモールステップで確認して、その関係を視覚的に実感させてみましょう。

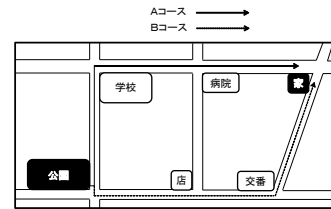


- ア 円の中の三角形は、何三角形かな？ 二つの辺は半径だから等しいね。
- イ 同じ図形を並べてみるよ。
- ウ ここ(色塗り)に三角形ができるよ。この三角形は何三角形かな？

- ② 日頃から正答率の低い問題を把握し、その原因を分析して指導に生かしましょう。
 - ・ 定着が難しい傾向のある問題や、定着が不十分な学習内容は、繰り返し復習する機会を設定しましょう。
- ③ 学力が平均をやや下回る児童に着目しましょう。
 - ・ 授業では、問題をしっかりと共有して、自力解決に向かえるようにしましょう。
- ④ 日頃から理由を説明する活動を大切にしましょう。
 - ・ 教科書に示されている説明の仕方を活用しましょう。

B問題 2 (2) 正答率が低く無解答率が高かった問題

遠足が終わると、家に直接帰ることになりました。ともやさんは家までの道のりが近い方がよいと考え、Aコース(公園を出発し学校と病院の前を通過して家に帰る道)ではなく、Bコース(公園を出発し店と交番の前を通過して家に帰る道)から帰りました。そのわけをことばや式を使ってかきましょう。



公園から学校 (700m)	公園から店 (500m)	公園から交番 (900m)
学校から病院 (600m)	学校から家 (1100m)	交番から家 (800m)

正 答	(例) Aコースは、 $700\text{m} + 1100\text{m} = 1800\text{m}$ (1km800m) Bコースは、 $900\text{m} + 800\text{m} = 1700\text{m}$ (1km700m) AコースよりもBコースの方が、100m近いことが分かったから。
------------	--

ねらい	公園から店と交番の前を通過して家に帰るのが近い理由の説明を考えることができる。	平均正答率 (%)	44.4
		無解答率 (%)	14.4

☆分析 平成30年度小学校第4学年算数の最終問題である。無解答率が高かった原因として、①時間が足りなかった(時間内に取り組めなかった)、②情報(文、図、表)が多いため、整理して取り組めなかった、③ことばや式を使ってわけ(理由)を書くことに不慣れである等が考えられる。

☆指導のポイント



- ① 時間の見通しをもって取り組ませる習慣を育てましょう。
- ・ もちろん一つのことじじっくり向き合い、粘り強く解決しようとする態度を育成することも大切です。しかし、自分がどのくらい時間がかかるか見通しをもったり、できる問題から先に取り組んだりする等の取り組み方も教えましょう。

- ② 書きながら考える習慣を育てましょう。
- ・ メモしたり、考えを整理するために図にかいたり、書き込んだりする等の思考の可視化について、積極的に称賛して習慣付けましょう。

【例】教師の支援:まなみさんは地図に書き込んで考えているよ。すごいね。(称賛して広める)

- ③ 説明の仕方を教え、日頃から書くことに抵抗感をもたない指導を心がけましょう。

【例】まなみさん: AコースとBコースの距離を比べました。【方法】

Aコースは、 $700\text{m} + 1100\text{m} = 1800\text{m}$ ですよ。【事実】
Bコースは、 $900\text{m} + 800\text{m} = 1700\text{m}$ ですよ。【事実】
だから、Bコースの方が近いです。【結論】



用いる方法、事実や根拠を言葉や式で書かせましょう。また、結論をしっかりと書かせる指導も大切です。



4 小学校5年：算数

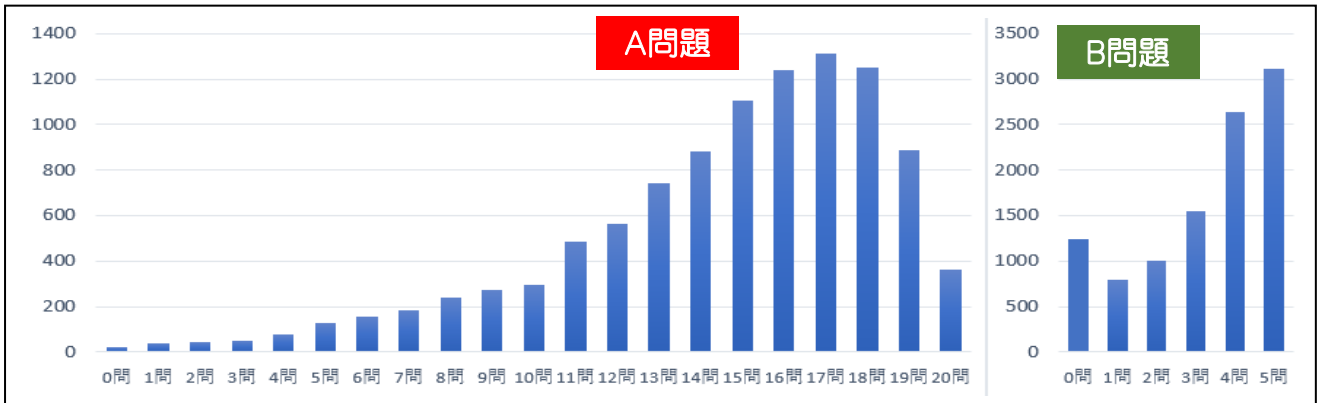
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**71.1%**である。「**図形**」については、平均正答率が**76.3%**と高くなっている。一方、「**量と測定**」については、平均正答率が**65.1%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かった**A問題の1(8)**と、**B問題の2(2)**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	数と計算	量と測定	図形	数量関係
		72.6		64.9		68.0	65.1

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



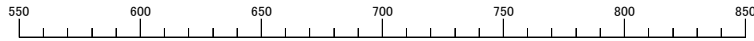
③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問					
A	1	1	(1) 小数の加法の計算	小数+整数の計算ができる。	数と計算	66.1	0.3
	2		(2) 分数の減法の計算	整数-分数の計算ができる。	数と計算	89.9	1.1
	3		(3) 小数×整数	小数×整数の計算ができる。	数と計算	91.3	0.6
	4		(4) 2けたでわるわり算	商が1桁になる計算ができる。	数と計算	89.9	1.6
	5		(5) 折れ線グラフで表すもの	折れ線グラフで表すとよいものを理解している。	数量関係	72.8	0.8
	6		(6) 小数の大小関係	小数の大小の関係を理解している。	数と計算	48.2	0.6
	7		(7) 小数のわり算の計算の仕方	小数のわり算の計算の仕方について理解している。	量と測定	59.6	2.2
	8		(8) 概数の表す範囲	四捨五入による概数の表す範囲について理解している。	数と計算	49.6	3.6
	9	2	(1) 角のかき方	分度器を使って指定した角をかくことができる。	量と測定	91.0	1.0
	10		(2) およその面積	およその面積について理解している。	量と測定	32.9	1.0
	11		(3) 面積の求め方	一部が欠けた長方形の面積を求めることができる。	量と測定	77.1	1.6
	12	3	(1) 三角形のかき方	じょうぎとコンパスを使って三角形を作図することができる。	図形	74.2	4.6
	13		(2) 直方体の辺の位置関係	直方体の中にある平行な辺を見つけることができる。	図形	86.4	2.1
	14		(3) 直方体の頂点の位置関係	直方体の中にある頂点の位置を表すことができる。	図形	68.3	2.8
	15	4	(1) 変わり方のきまり	変わり方を表に書くことができる。	数量関係	81.7	2.3
	16		(2) 変わり方のきまり	変わり方のきまりを見つけ、□や△を使って式に表すことができる。	数量関係	47.6	4.9
	17		(3) 変わり方のきまり	段の数と地面からの高さの関係をjyって、地面からの高さを求めることができる。	数量関係	67.7	6.2
	18	5	(1) 資料の読み取り	資料の「注意する場所」に着目し、そこから正しく情報を読み取ることができる。	数量関係	88.9	3.3
	19		(2) 資料の読み取り	資料の「地区」に着目し、そこから正しく情報を読み取ることができる。	数量関係	91.9	3.9
	20		(3) 資料の読み取り	資料から分かることを考え、正しい情報を選択することができる。	数量関係	78.0	4.5
B	21	1	(1) 実生活の場面における活用	実生活の問題場面に、わり算を適用して計算することができる。	数と計算	58.0	7.9
	22		(2) 実生活の場面における活用	実生活の問題場面から情報を整理し、必要な情報を選択して判断及び説明することができる。	数と計算	51.1	8.2
	23	2	(1) 3つの折れ線グラフの読み取り	複数の折れ線グラフや記号などの情報の中から必要な情報を適切に選択し、読み取ることができる。	数量関係	72.1	5.9
	24		(2) 3つの折れ線グラフの読み取り	複数の折れ線グラフや記号などの情報の中から必要な情報を適切に選択し、読み取ることができる。	数量関係	78.5	6.2
	25		(3) 3つの折れ線グラフの読み取り	折れ線グラフの傾きぐあいから、蛇口の水が止めた状況を判断することができる。	数量関係	65.0	6.7

特徴の見られた問題例 (小学校5年 算数)

A問題 ① (8) 正答率が低かった問題

四捨五入で、百の位までのがい数にしたとき、700になる整数のうち、いちばん小さい数と、いちばん大きい数を答えましょう。



正答	大きい数	749
	小さい数	650

ねらい	四捨五入による概数の表す範囲について理解している。	平均正答率(%)	49.6
		無解答率(%)	3.6

☆分析 誤答として、大きい数を750、740と解答した児童がいると考えられる。百の位までの概数にする際、十の位の数に注目して、切り捨てるか切り上げるかを決定するが、その方法を十分に理解しておらず、一の位の数も切り捨て、切り上げて考えた児童もいると考えられる。また、数直線を活用できていないことも考えられる。

☆指導のポイント



- ① 概数にするために注目する位はどれかをしっかりと押さえましょう。
- ② 数直線を積極的に活用させる授業を展開しましょう。

授業のアイデア

- 1 四捨五入して700になる整数を考える。
- 2 四捨五入して700になる範囲を数直線に表す。



四捨五入して700になる整数を発表してください。



712は700になるね。



752もいいよね。



752は、800だよ。



どうして800になるのかな？



752の十の位をみると、5です。5は、四捨五入でくり上げだから800です。



百の位までのがい数にするには、何の位に注目すればいいかな？



十の位です！

がい数にするために、どの位に注目するか全体で確認させ、レディネスをそろえます。



四捨五入して700になる整数がたくさん集まりましたね。集めた整数を小さい順に並べてみましょう。



小さい順に並べさせることで、『範囲』があることをつかませることができます。



1番小さい数と1番大きい数は何かな？



集めた点を数直線に表すことで、範囲の理解が深まり、最小の数と最大の数を視覚的につかませることができます。



649はだめだね。650以上だ！

749はいいけれど、750はだめだね。

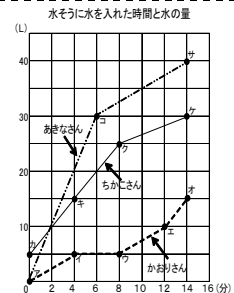


このあと考えられる活動→教科書p22②
※13000は数が大きいため、1300のように、数値を小さくして考えさせてもよい。

B問題 ② (2) 正答率が低かった問題

次のグラフは、あきなさん、ちかこさん、かおりさんの3人が、べつべつのじゃ口から水そうに水を入れたときの時間と水の量を調べたものです。とちゅうで水を止め、しばらく止めた後、また入れはじめたのはだれですか。また、そう考えた理由を、次の①～④の中から1つ選び、番号で答えましょう。

- ① 線のかたむきぐあい、で、変わらないところがあるから。
- ② 線のかたむきぐあい、で、急にふえているところがあるから。
- ③ 線のかたむきぐあい、で、少しずつふえているところがあるから。
- ④ 線のかたむきぐあい、で、急にへっているところがあるから。



正答	だれ	かおりさん	番号	①
----	----	-------	----	---

ねらい	折れ線グラフの傾きぐあいから、蛇口の水が止まっている状態を判断することができる。	平均正答率(%)	65.0
		無解答率(%)	6.7

☆分析 誤答の原因として、「水を止める」と「水の量が変わらない」がつながっていない児童がいたと考えられる。

☆指導のポイント



グラフをかいたり、数値をよんだりする時間に「グラフをもとにお話をする場」を加え、日常の事象とグラフを関連付けさせる指導を取り入れましょう。また、実際に体験したことをグラフに表す等の数学的活動を取り入れましょう。

授業のアイデア



あきなさんのア～コとコ～サでは、どちらが水の勢いがありますか。



ア～コです。



ちかこさんのカ～キ、キ～クは、水の勢いはどうなっていますか。理由も答えましょう。



同じです。理由は…



かおりさんがしたことを、となりの人にお話してみましょう。



最初の4分で水を5L入れたよ。次の4分間は、グラフのかたむきぐあいが変わらないから水を止めているよ。



8分からの4分間で水を5L入れたよ。最後の2分でいきおいをまて、水を5L入れたね。

Ⅲ 中学校の分析結果

- 1 中学校 1 年：国語
- 2 中学校 2 年：国語
- 3 中学校 1 年：社会
- 4 中学校 2 年：社会
- 5 中学校 1 年：数学
- 6 中学校 2 年：数学
- 7 中学校 1 年：理科
- 8 中学校 2 年：理科
- 9 中学校 2 年：英語

1 中学校1年：国語

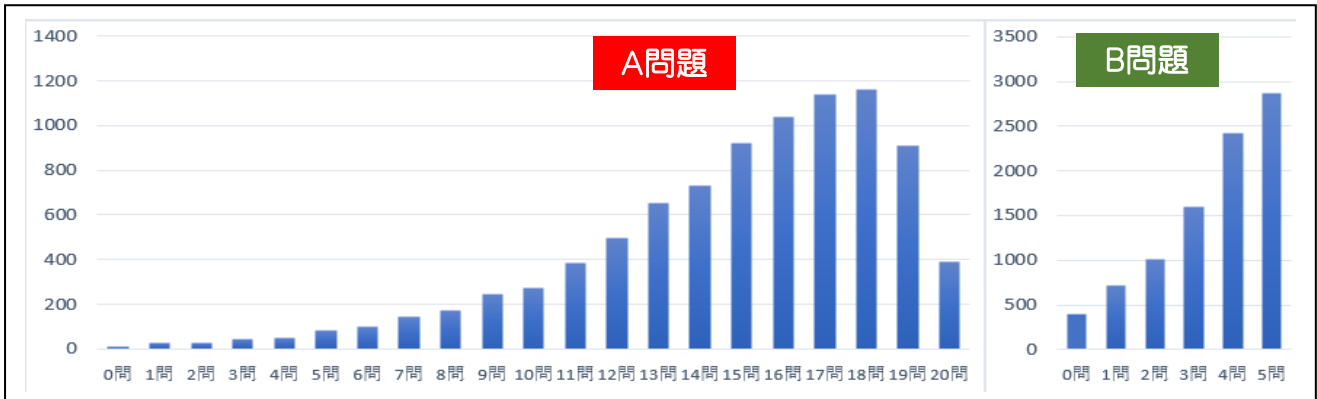
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**73.4%**である。「話すこと・聞くこと」については、平均正答率が**87.9%**と高くなっている。一方、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、平均正答率が**71.4%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**一問二と、五問三**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
		74.2		70.2		87.9	77.4

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問	中・小問					
A	1	1	1	語句の意味の理解	文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解することができる。	読むこと	85.1	0.1
	2		2	内容の把握	文章の展開に即して、内容をとらえることができる。	読むこと	42.3	5.4
	3		3	内容の把握	文章の特徴や、その効果をとらえることができる。	読むこと	81.6	0.4
	4	2	1	内容の把握	文章の展開に即して、内容をとらえることができる。	読むこと	82.2	2.2
	5		2-A	内容の把握	文章の展開に即して、内容をとらえ、求められている表現の仕方にあわせてまとめることができる。	読むこと	80.4	6.7
	6		2-B	内容の把握	文章の展開に即して、内容をとらえ、求められている表現の仕方にあわせてまとめることができる。	読むこと	58.1	8.5
	7	3	1	適切な言葉の選択	話の展開に即して、適切な言葉を選択して話すことができる。	話すこと・聞くこと	93.8	0.7
	8		2	スピーチ内容の把握	話し手の意図をとらえながら聞くことができる。	話すこと・聞くこと	82.1	0.8
	9	4	1	新聞の編集	目的や意図に応じて、紙面の構成を工夫することができる。	書くこと	79.2	0.9
	10		2	新聞の編集	目的や意図に応じて、記事の内容を書くことができる。	書くこと	85.9	1.3
	11	5	1-(1)	漢字の読み	文脈に即して、漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	93.0	1.6
	12		1-(2)	漢字の読み	文脈に即して、漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	96.8	1.3
	13		2-(1)	漢字の書き	文脈に即して、漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	77.5	4.1
	14		2-(2)	漢字の書き	文脈に即して、漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	78.6	3.3
	15		3	漢字辞典の用法	漢字辞典の部首索引で調べることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	37.4	1.8
	16		4	ことわざの意味	文脈に即して、ことわざを用いることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	77.9	1.7
	17		5-(1)	主語・述語の関係	文脈に即して、主語をとらえることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	68.2	2.0
	18		5-(1)	主語・述語の関係	文脈に即して、述語をとらえることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	67.9	2.1
	19		5-(2)	ローマ字の知識	文脈に即して、ローマ字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	47.5	6.5
	20		5-(3)	楷書の筆使い	楷書の左払いの筆使いを的確にとらえることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	68.7	3.6
B	21	1	1	目的に応じた読書	目的に応じて、複数の本を選んで比べて読むことができる。	読むこと	62.3	0.9
	22		2	情報の活用	目的に応じて、複数の本や資料から必要な情報を活用することができる。	読むこと	69.8	4.6
	23	2	1	情報の読み取り	目的に応じて、資料の情報を的確に読み取ることができる。	読むこと	75.3	1.6
	24		2	情報の読み取り	複数の情報を関連付けて的確に読み取ることができる。	読むこと	76.5	2.3
	25		3	目的に応じた記述	目的に応じて、伝えたい内容を効果的に書くことができる。	書くこと	67.0	8.3

特徴の見られた問題例 (中学校1年 国語)

A問題 問二 正答率が低かった問題

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

いねのほが実り始める九月の中ごろになると、町外れにある用水路のせきを閉め、田を干すのが、ぼくの町のならわしだった。町を南北に流れる川は、せきが閉まると、二、三十センチの浅せに変わり、町中の子どもも大人も、魚とりに夢中になる。ぼくもあみをかた手に、魚を求めて川の中を歩き回っている。

何気なく上流の浅せに目をやったとき、ぼくは自分の目をうたぐった。竹のすのこのすぐ下のところに、あざやかな紅色のコイがゆうゆうと円をえがいて泳いでいたのだ。三十センチはゆうにある。

ぼくは①が高鳴った。すのこがかげになっていて、上流にも下流にも人がいるのに、幸い、だれも気がついていないようなのだ。ぼくは幸運に舌なめずりしながら、さりげないふうをよそおい、コイに気づかれないように静かに川を下りた。ぶるぶると武者ぶるいがおきた。あみをしっかり右手ににぎりしめると、はやる心をおさえ、ぼくは、そろりそろりコイに近づいていった。頭の上からすっぽりあみをかぶせようか、それとも、浅せに追いこもうか、心を決めかねながら。コイは、ぼくに気がついていようなそぶりも見せず、ゆっくりと同じ速度で、ぐるぐる左回りに泳いでいる。

浅せに追いこもう……。
ぼくはこしをかがめ、あみでにげ道をふさぐようなかつこうをしてせまっていた。二メートルほどに近づいたとき、ついにコイはぼくに気づいた。コイはいっしゅん、動きを止めた。そしてすぐに、びっぴつと直線的に泳ぎながらにげ道を探し始めた。ぼくはあみを持って、じわっ、じわつとコイに近づいていった。

あと一メートルというときだ。コイはおどろくほどの速さで、すどくぼくの足下へとつ進してきた。とっさにぼくはあみを出した。しかし、そのあみをかいくぐって、赤いかたまりが矢のように後ろの方へ飛んでいくのが見えた。ぼくは身をひるがえして、ばしやばしやと浅せを追いかけて走った。

だが、あつというまに、コイの姿は目の前の深みに消えてしまった。全く、いっしゅんの出来事だった。ぼくはぼう然として、深みをながめていた。②の高鳴りはいっこうに治まらなかった。③やつとめぐり合つた幸運をつかみそこねたのだ。大物のコイだった。それもだれもがほしがっている紅鯉を！
(丘修三「紅鯉」による)

問二 文章中に——線③「やつとめぐり合つた幸運をつかみそ

こねたのだ。」とありますが、これはどういうことですか。文章中の言葉を使い、「くこと。」の形で終わるよう二十五字以内で答えなさい。

正 答 だれもがほしがっている紅鯉をとりにがしたこと。

ねらい	文章の展開に即して、内容をとらえることができる。	平均正答率(%)	42.3
		無解答率(%)	5.4

☆分析

正答率は、42.3%であり、A問題の中で2番目に正答率が低い。正確に文章を読んで、適切に表現することについて課題がある。

☆指導のポイント

本文の描写をもとに登場人物の心情を捉えさせることが必要である。そのためには、教材研究を行う際にポイントとなる表現を押さえて指導に当たることが重要である。また、「教材文を学ぶ」のではなく、「教材文を通して学ぶ」ことを意識した授業を行っていくことが必要である。

文学的な文章を学習する際には、登場人物の心情の変化を読み取る根拠を、本文の叙述に結び付けて考えさせましょう。また、着目させたい表現を教師が意図的に指定して考えさせたり、同じような心情が分かる他の表現を探させたりする活動も有効です。さらに書く活動や表現する活動を行う場合は、さまざまな条件を付加するといった方法も取り入れましょう。



心情把握の方法についても指導してみよう！

- 例えば、①「心情」、②「しぐさや行動」、③「登場人物の台詞」、④「情景描写」、⑤「直接的な気持ちの表現」などに注目をさせると、心情をつかみやすくなります。

特徴の見られた問題例（中学校1年 国語）

A問題 問三 正答率が低かった問題

エウイア
造迷福祖

調字を漢字辞典で、部首の「ア」から一つ選び、
調べる場合、一番はじめに出る漢字と
して、最も適切な漢字を選び、
記号で答えなさい。

正 答	ウ
-----	---

ねらい	漢字辞典の部首索引で調べることができる。	平均正答率(%)	37.4
		無解答率(%)	1.8

☆分析

正答率は、37.4%であり、A問題の中で最も正答率が低い。漢字辞典の使い方、部首索引を使って漢字を調べることについて課題がある。

☆指導のポイント

漢字辞典の使い方については、昨年度に引き続き、A問題の中で最も正答率が低かったことを考えると、漢字辞典の三つの引き方（部首、音訓、総画）を理解させるのにあわせて、実際に辞典を引く活動を取り入れる必要がある。例えば、各辞典に記載されている「使い方」や「使用方法」などを活用して、指導することが重要である。



生徒が辞書や辞典に触れる機会を意図的に設定することが大切です。また、辞書や辞典を活用する面白さや便利さなどについても体験させることが重要となります。そのためには、指導者自身が日常的に辞書や辞典で分からないことを調べる姿を生徒に見せることが大切です。そのような環境づくりから始めていきましょう。

こんな授業はどうか！

※ 教科書教材（東書1年P122・光村1年P41）を学習する際に、漢字辞典の引き方について改めて理解を図る。

★「祖」「福」「迷」「造」の4つの漢字を部首さくいで調べる場合、一番はじめに出てくる漢字はどれだろう。

- ① 各自で予想を立てる。
※ 予想を立てる際には、必ず根拠をあげて説明できるようにする。
- ② 各自が立てた予想を発表し、協議を行う。
- ③ 「使い方」や「使用方法」などを活用して、漢字の並び方についての理解を図る。
- ④ 部首さくいで調べる場合、一番はじめに出てくる順について自分の言葉でまとめる。

2 中学校2年：国語

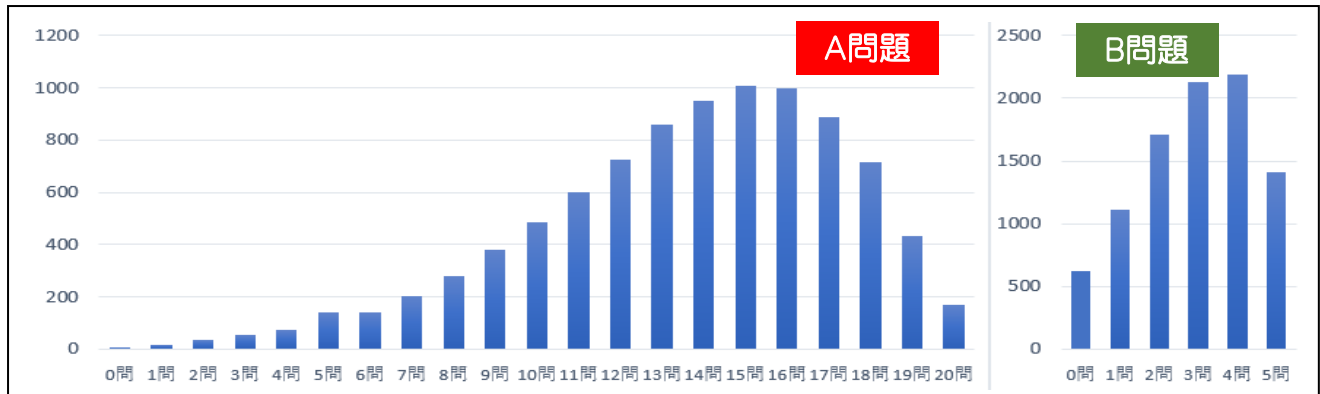
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**66.0%**である。「話すこと・聞くこと」については、平均正答率が**80.4%**と高くなっている。一方、「書くこと」については、平均正答率が**54.3%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**一問三**と、**五問六**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野領域	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
		68.0		58.3		80.4	54.3

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問	小問					
A	1		1	語句の意味の理解	文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解することができる。	読むこと	81.9	0.1
	2	1	2	内容の把握	文章の構成や展開に即して、登場人物の心情をとらえることができる。	読むこと	91.6	0.1
	3		3	内容の把握	場面の展開や登場人物などの描写に注意して、内容を理解することができる。	読むこと	29.6	5.5
	4		1	内容の把握・要約	文脈の展開に即して、指示内容をとらえてまとめることができる。	読むこと	61.7	3.9
	5	2	2	内容の把握	文章の展開に即して、内容を的確にとらえることができる。	読むこと	57.4	0.6
	6		3	文章の構成・組み立ての把握	文章の構成や組み立てをとらえることができる。	読むこと	48.4	1.0
	7		1	文章の推敲	案内文を読み返して、伝えたい内容が書き表されているか検討することができる。	書くこと	67.9	7.5
	8		2	文章の記述	案内文を書くに当たり、工夫点を理解することができる。	書くこと	68.3	0.7
	9		1	発言の意図	電話連絡における発言の意図を理解することができる。	話すこと・聞くこと	83.0	0.7
	10		2	伝達内容の確認	必要に応じて質問し、相手の伝えたい内容を確認することができる。	話すこと・聞くこと	82.4	1.0
	11		1-(1)	漢字の読み	文脈に即して、漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	94.5	1.9
	12		1-(2)	漢字の読み	文脈に即して、漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	85.3	2.0
	13		2-(1)	漢字の書き	文脈に即して、漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	60.1	18.4
	14		2-(2)	漢字の書き	文脈に即して、漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	60.4	20.9
	15		3	漢字の意味の理解	熟語を組み立てている漢字の意味を理解することができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	86.2	1.0
	16		4	語句の理解	事象や行為などを表す多様な語句について理解し、文章の中で使うことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	90.8	0.7
	17		5	故事成語	故事成語を文脈の中で正しく使うことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	67.0	1.9
	18		6	修飾・被修飾の関係	修飾・被修飾の関係を正しくとらえることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	24.3	5.6
	19		7	歴史的仮名遣い	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	50.2	3.2
	20		8	行書の特徴	漢字の行書の基礎的な書き方を理解することができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	68.4	1.8
B	21		1	建設的な話し合い	目的に応じて、話し合いの話題や方向をとらえて的確に話し合うことができる。	話すこと・聞くこと	75.6	0.6
	22	1	2	情報の読み取り	目的に応じて、資料から必要な情報を読み取ることができる。	読むこと	75.1	0.9
	23		3	情報の活用	目的に応じて、資料から必要な情報を読み取り、それを活用して文章を書くことができる。	書くこと	49.7	15.7
	24		1	情報の読み取り	目的に応じて、資料から必要な情報を読み取ることができる。	読むこと	59.9	10.2
	25	2	2	情報の活用	目的に応じて、資料から必要な情報を読み取り、それを活用して文章を書くことができる。	書くこと	31.1	23.2

特徴の見られた問題例（中学校2年 国語）

A問題 問三 正答率が低かった問題

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

未来みくと咲さきは小学校の頃から、同じマーチングクラブでトランペットを吹いていた。中学校でも吹奏楽部に入り、二人そろってトランペットを任された。いきなりのレギュラーに未来と咲はAを取り合って喜んだ。だが、喜びもつかの間、練習が始まったとたん、未来はミスを重ねるようになってしまった。

演奏曲は難しい。上手な先輩たちの中で、気後れもしている。けれど、出だしが遅れるなんて、小学生時代にさえないなかったことだ。気にすればするほど、タイミングがつかめなくなってくる。

未来はトランペットをぎゅっと握った。

「今日はこれで終わりにしよう。」

先輩が指揮台を降りると、みんなは無言で楽器を片づけ始めた。重たい空気がたちこめる。鳴ってもいない重低音が、どこかで響いているようだった。となりでは、咲がトランペットの手入れを始めていた。クロスで拭かれた金色がまぶしい。光が、そこから放たれているのではないかと思うほど、強く輝いている。

「咲ちゃんは、すごいね。」

ぼつんと言った言葉が、自分の耳にうらみがましく返ってきた。

「全然すぐくないよ。いつもと同じだよ。」

咲の返事には、なんの他意も混じっていないのに、胸に黒いインクが一滴落ちて広がった。未来はいたたまれずに席を立った。楽器を棚にしまい、荷物を持って音楽室を出る。

「ふてくされんなよ。」

背中ごしの声に振り向くと、指揮者の先輩が立っていた。

「それより、もっと自信をもてよ。」

励ますような声が続いた。

自信？

未来はBを丸くして、首をかしげた。

（まはら三桃「音を追いかけて」より）

問三 文章中に、「未来が咲のことをうらやましく思っている様子」が描写されている部分があります。描写されている部分を連続した二文で探し、

初めと終わりの五字ずつを書きなさい。ただし、句読点も字数に含めません。

正答 クロスで拭 ～ いている。

ねらい	場面の展開や登場人物などの描写に注意して、内容を理解することができる。	平均正答率 (%)	29.6
		無解答率 (%)	5.5

☆分析

正答率は、29.6%であり、A・B問題をとおして2番目に正答率が低い。授業で使うべき学習用語の理解や、「文」の構成などを正しくとらえることについて課題がある。

☆指導のポイント

授業で指導すべき学習用語を、意識的に取り上げて指導することが大切である。そのためには、教科書に取り上げられている学習用語を使って授業を進めたり、生徒に使わせたりするような指導の工夫をする必要がある。

文学的な文章を指導する際には、「描写」などの学習用語を意識して、題材をとおして作品の描き出す世界を読み深めるような指導をすることが効果的です。また、言葉のもつ意味やイメージなどを生徒に考えさせたり、同義の言葉を調べさせたりするような指導をすることで、生徒の語彙を増やすこともできます。



感情を表す言葉や心の中で思った言葉について

「感動する」、「心配する」、「満足」を別の言葉で表現させる学習を行う。

- ・ 「感動する」—「胸がいっぱい」、「心配する」—「気をもむ」、「満足」—「会心」

※ 上記のように別の言葉で表現させたり、類似表現を日常的の生活の中で使用させたりするような指導をするとよい。実態に応じて、作文指導などを行うことも考えられる。

特徴の見られた問題例 (中学校2年 国語)

A問題 問六 正答率が低かった問題

次の線部の言葉が修飾している部分を、一文節で抜き出さない。

ちようど演奏会に行く準備ができたところです。

正答	できた
----	-----

ねらい	修飾・被修飾の関係を正しくとらえることができる。	平均正答率(%)	24.3
		無解答率(%)	5.6

☆分析

正答率は、24.3%であり、A・B問題をとおして最も正答率が低い。また、無解答率も、5.6%と高い。文脈に即して、修飾される語をとらえることについて課題がある。

☆指導のポイント

修飾・被修飾の関係など、文節どうしの関係や文の成分の照応についての指導は、言葉の特徴やきまりに関する事項の指導だけではなく、他領域の指導と関連付けて指導することが大切である。また、文法を学習する単元だけでなく適宜授業で取り上げて丁寧に指導し、定着させておくことが重要である。



「書くこと」の領域において、作文等の指導をする際には、「正しく照応しているか」などの観点を示してあげるとよいでしょう。文節どうしの関係を理解させるために、誤解を与えない分かりやすい表現方法を用いることを意識させた文を書かせたり、推敲させたりすることもよいですね。

○ 曖昧な文を推敲して、修飾と被修飾の関係をとらえよう。

～ 二通りに解釈できる文を推敲し、書き手の意図にそった文を作成する ～

(例) 「彼女は懸命に走る彼を応援した。」(語順の入替え、句点を付けるといった方法)

- ① 彼女が懸命であることを伝えるためにはどう書き表したらよいか。
- ② 彼が懸命であることを伝えるためにはどう書き表したらよいか。

2年連続して文節どうしの関係を問う問題の平均正答率が3割以下でした。今回の調査問題を含め、さまざまな調査等で生徒の正答率が低い問いは何だったのかを、客観的に把握して指導に当たったり、授業改善を図ったりしていくことが大切ですね。



3 中学校1年：社会

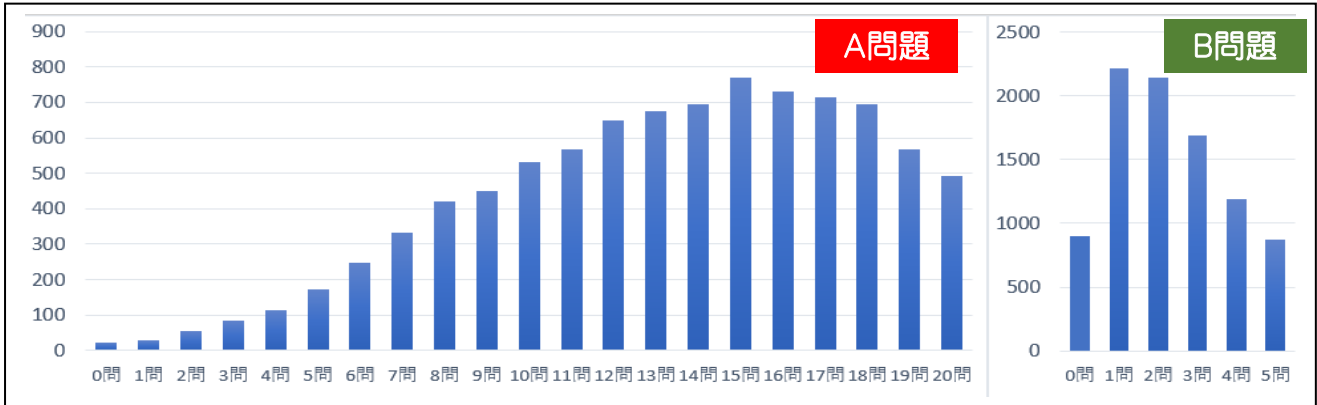
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**62.1%**である。「**公民的分野**」については、平均正答率が**68.5%**と高くなっている。一方、「**地理的分野**」については、平均正答率が**59.4%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低く、無解答率が高かった**A問題の 12**と、平均正答率が低かった**B問題の 3**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	地理的分野	歴史的分野	公民的分野
	66.2	45.9		59.4	61.1	68.5

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問 中・小問					
A	1	1	1 都道府県の名称と位置	山形県に隣接する県について理解している。	日本の地域的特色と地域区分	61.8	0.3
	2		2 米づくりのさかんな地域	資料から、庄内平野が米づくりに適している理由を読み取ることができる。	日本の地域的特色と地域区分	64.9	0.2
	3	2	1 太平洋ベルト	太平洋ベルトについて理解している。	日本の地域的特色と地域区分	33.0	10.2
	4		2 工業のさかんな地域	工場が多く集まる地域の特徴について理解している。	日本の地域的特色と地域区分	61.3	1.2
	5		3 都道府県の名称と位置	九州地方で工業のさかんな地域の県の位置について理解している。	日本の地域的特色と地域区分	70.6	2.9
	6	3	1 縄文時代のくらし	縄文時代のくらしについて理解している。	古代までの日本	51.5	0.3
	7		2 聖徳太子の政治	法隆寺について理解している。	古代までの日本	56.4	8.9
	8		3 聖武天皇の政治	聖武天皇が行った政治について、資料から読み取ることができる。	古代までの日本	67.8	3.8
	9		4 貴族のくらし	貴族である藤原道長の政治について理解している。	古代までの日本	58.5	9.8
	10		5 元寇	元寇について理解している。	中世の日本	69.0	0.8
	11		6 信長・秀吉・家康と天下統一	信長・秀吉・家康の天下統一について理解している。	中世・近世の日本	63.7	0.9
	12		7 キリスト教の禁止	キリスト教の禁止について理解している。	近世の日本	82.9	4.5
	13		8 明治維新	明治維新について理解している。	近代の日本	84.1	1.2
	14		9 大日本帝国憲法の発布	大日本帝国憲法の発布について理解している。	近代の日本	65.3	1.1
	15		10 太平洋戦争	原子爆弾の投下について理解している。	近代の日本	90.5	1.2
	16	4	1 国の政治のしくみ	国の政治のしくみについて理解している。	民主政治と政治参加	62.3	1.4
	17		2 三権分立	三権分立について理解している。	民主政治と政治参加	69.1	6.7
	18		3 裁判員制度	裁判員制度について理解している。	民主政治と政治参加	48.8	1.7
	19	5	1 日本国憲法の三つの原則	日本国憲法の三つの原則について理解している。	日本国憲法の基本的原則	75.9	1.9
	20		2 国民の義務	国民の義務について理解している。	日本国憲法の基本的原則	86.2	1.7
B	1	1	1 石油コンビナート	石油コンビナートの立地条件について、資料から読み取り、考察することができる。	日本の地域的特色と地域区分	79.9	0.6
	2	2	2 日本の工業	日本の工業生産を支える工場の規模の特徴について、資料から読み取り、考察することができる。	日本の地域的特色と地域区分	44.5	5.5
	3	3	3 弥生時代のくらし	弥生時代にむらどうして争いがおこった理由について、資料から読み取り、考察することができる。	古代までの日本	39.9	4.1
	4	4	A 参勤交代	江戸幕府が大名に参勤交代制度を行った理由について、資料から読み取り、考察することができる。	近世の日本	38.4	15.2
	5		B 参勤交代	江戸幕府が大名に参勤交代制度を行った理由について、資料から考察することができる。	近世の日本	26.9	15.7

特徴の見られた問題例（中学校 1 年 社会）

A 問題 ① 2 正答率が低く、無解答率が高かった問題

2 拓哉さんは、資料 1、2 を参考にして、庄内平野で米づくりがさかんな理由をレポートにまとめました。下のレポートの ① と ② に入る適切な語句の組み合わせを、下のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。



レポート

山形県の庄内平野は、夏場の日照時間が ① ため、いねがじょうぶに育つ。そして、② から、栄養分を多くふんだ水がたくさん流れてくるため、米づくりに適している。

- ア ① 短い ② 日本海
 イ ① 長い ② 日本海
 ウ ① 短い ② 最上川や赤川
 エ ① 長い ② 最上川や赤川

ねらい	資料から、庄内平野が米づくりに適している理由を読み取ることができる。	正 答	エ	平均正答率 (%)	64.9
				無解答率 (%)	0.2

☆分析

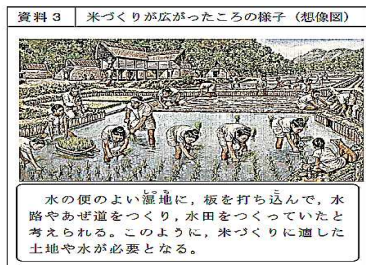
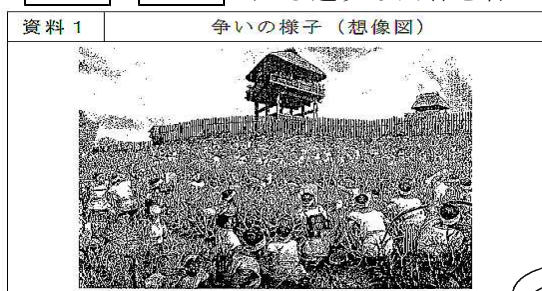
- 平均正答率及び無解答率は特に低くはないが、知識を問うのではなく、資料から読み取ったことを選択肢から選び解答する問題であることを考えると、想定した正答率よりも低い結果である。従って、各種の資料を読み取る力が身に付いていないのではないかと考えられる。

☆指導のポイント

- 地図の読み取りについては、教師が資料の特性を把握し、各学年の発達の段階に応じた丁寧な指導が必要である。
- ※ 例えば、3・4年生においては白地図に書き込んだり、色を塗ったりする活動の充実を図るとともに、地図に書き込む作業の前段階として、空き箱等を利用して建物をつくるなど、地図を立体的に表したり、高さの違いを色画用紙で表したりするなどして、位置関係等の感覚をつかませる工夫を行う。
- 文章を読み取る力について、国語科と連携を図りながら指導していく必要がある。

B 問題 ③ 正答率が低かった問題

③ 雄太さんは、米づくりが始まった弥生時代の学習で、先生から資料 1 「争いの様子（想像図）」を示され、疑問をもちました。下の資料 2 と 3 をもとに、雄太さんが考えたこと A と B に入る適切な内容を答えなさい。



雄太さんの疑問

なぜ、米づくりが始まると、むらどうして争いが起こったのだろうか。

雄太さんが考えたこと

米づくりが始まると、資料 2 と 3 より A . B をめぐって、むらどうして争いが起こったのだろうか。

ねらい	弥生時代にむらどうして争いが起こった理由について、資料から読み取り、考察することができる。	平均正答率 (%)	39.9
		無解答率 (%)	4.1
正 答	A (例) たくわえられた米	B (例) 米づくりに適した土地や水	

☆分析

- 2つの資料のうち的一方しか読み取っていなかったり、資料の文章も含めて必要な情報を取り出していなかったりしているのではないかと考えられる。
- 授業において、調べたことをもとに分析・考察し、学習問題に対する自分の考えを表現する学習活動が設定されていないことが考えられる。

☆指導のポイント

教師の授業づくりのポイント

- ① 本時の学習後の児童の姿（ゴールイメージ）は？
※ 学習指導要領に即した、本時の目標の明確化
- ② そのために、どのような「まとめ」が理想か？
- ③ 理想とする「まとめ」に向かうために、どのような「学習問題」を設定するか？
- ④ 児童が「学習問題」を解決するために、学習指導過程はどうあればよいか？
ア 導入で問題意識をもたせるために、どんな資料を使うか。
イ 展開の活動をどうするか。（資料の読み取り、事象の比較・関連付け、話し合い、発表）
ウ 終末の活動をどうするか。（児童がまとめる、振り返る）

- ◇ 児童の思考の流れに沿った「問題解決的な学習」を中心とした学習過程を工夫する。
- ◇ 「教師の授業づくりのポイント」を生かして、教師が学習の展開を計画し、児童の思考の流れに沿って授業を展開していく。

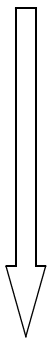


児童の考える内容を予想しながら展開を考えましょう。

〈本時の目標〉
資料を比較・関連付けながら、むらどうしの争いが起きた理由について考え、まとめることができる。

導入段階

- ・ 疑問をもたせるような資料を提示し、その資料に関する疑問について、児童が発言したり、つぶやいたりした言葉をもとに、自分たちが解決したい内容となる学習問題を設定していく。



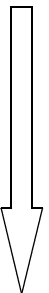
資料1 「争いの様子」、補助資料「人骨にささった矢じり・遺跡から出土した剣」を提示し、疑問をもたせる。

↓

〈学習問題〉
なぜ、米づくりが始まると、むらどうしで争いが起こったのだろうか。

展開段階

- ・ どの資料をもとに調べていくのかを全体で確認し合う。
- ・ 資料にある事実を読み取らせる。（教師の説明も含む。）
※ 写真、絵、グラフなどのデータ、言葉、文章
- ・ 複数の資料を比較して考えさせたり、関連付けて考えさせたりする。
- ・ 話し合いや発表をさせる。（個→ペア→全体）



資料2 「高床倉庫」
資料3 「米づくりが広がったころの様子（想像図）」

終末段階

- ・ 資料や話し合いをもとにして、自分の考えをまとめさせる。
例：「資料○と△より、ということが考えられる（言える）。」
※ 必要に応じて、「つまり、◇◇である。」



・むらどうしがどうして争ったのか分かった。



・この後、むらはどうなったのかな。

〈まとめ〉
米づくりが始まると、たくわえられた米、米づくりに適した土地や水をめぐって、むらどうしで争いが起こったと考えられる。

- ・ 本時の学習を振り返って、本時の学びについて自分の言葉でまとめる。
例：「～に気付いた、～が分かった、～について調べたい、～だろうか」

4 中学校2年：社会

学習状況調査の結果概要

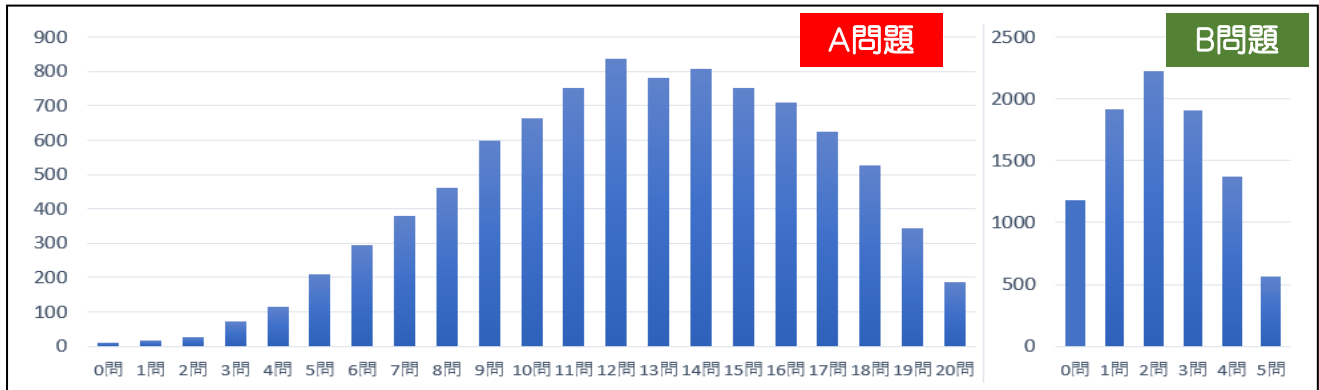
平均正答率は、**58.9%**である。「世界の各地の人々の生活と環境」については、平均正答率が**65.6%**と高くなっている。

一方、「中世の日本」については、平均正答率が**46.0%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**23(2)**と、平均正答率が低く、無解答率も高かったB問題の**11**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野領域	地理的分野			歴史的分野	
				世界の姿	世界各地の人々の生活と環境	世界の諸地域	古代までの日本	中世の日本
				62.5	44.5	60.1	65.6	50.5

② 正答数の分布(縦軸の単位は人)



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	解答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問					
A	1	1	1(1) 大洋の分布	三大洋の面積の割合を理解している。	地理的分野	91.2	1.4
	2		1(2) 目的に合わせた世界地図	面積の正しい世界地図を活用することができる。	地理的分野	55.2	0.7
	3		1(3) 目的に合わせた世界地図	使う目的に合わせて世界地図を活用することができる。	地理的分野	35.1	0.3
	4		1(4) 内陸国と海洋国	内陸国の特色と具体的な国名を理解している。	地理的分野	71.9	0.3
	5		1(5) 地球上の位置の表し方	経線と緯線について理解している。	地理的分野	34.4	3.2
	6		1(6) 国境の決まり方	国境の決まり方について理解している。	地理的分野	73.1	0.3
	7		2(1) 世界のさまざまな宗教	宗教人口やキリスト教の特色について理解している。	地理的分野	85.3	1.0
	8		2(2) 世界の地域区分	米の国別生産量から、地域区分を読み取ることができる。	地理的分野	78.3	3.2
	9		2(3) 世界のさまざまな住居と気候	住居の特徴と気候との関係を、資料から読み取って考察することができる。	地理的分野	51.2	0.7
	10		2(4) 世界の気候	地中海性気候の雨温図を読み取ることができる。	地理的分野	47.5	0.7
	11	2	1(1) 弥生時代のむらの生活	弥生時代のむらの生活について理解している。	歴史的分野	95.7	0.4
	12		1(2) 前方後円墳	前方後円墳を描くことができる。	歴史的分野	90.3	2.4
	13		1(3) 聖徳太子の政治	聖徳太子が行った政治について、資料から読み取ることができる。	歴史的分野	75.3	9.1
	14		2(1) 班田収授法	奈良時代の律令国家のもとで行われた班田収授法の制度を理解している。	歴史的分野	70.9	0.9
	15		2(2) 国風文化	平安時代の国風文化について理解している。	歴史的分野	64.7	6.4
	16		3(1) 執権政治	鎌倉幕府の仕組みについて理解している。	歴史的分野	49.4	18.3
	17		3(2) 承久の乱	承久の乱の原因について理解している。	歴史的分野	27.9	1.3
	18		3(3) 鎌倉文化	中世の鎌倉文化について理解している。	歴史的分野	56.4	0.8
	19		3(4) 南北朝時代	南北朝時代について理解している。	歴史的分野	41.0	1.2
	20		3(5) 商業の発展と座	室町時代に座が作られ、商業が発展したことを理解している。	歴史的分野	55.5	1.1
B	21	1	1 アフリカ州と中国との結び付き	アフリカ州と中国との結び付きが強まっている理由について、アフリカの鉱業分布や中国製品に関する資料から、仮説を立てることができる。	地理的分野	34.6	13.8
	22		2 アフリカ州と中国との結び付き	中国がアフリカ州との結び付きを強めている理由を調べるために必要な資料を考察することができる。	地理的分野	66.4	2.1
	23	2	1 藤原氏と平氏の政治	藤原氏と平氏が政治の実権をにぎった理由について、資料から読み取り、考察することができる。	歴史的分野	41.5	16.9
	24		2 平氏による遷都	平氏が京都から神戸に遷都した理由について、資料から読み取り、考察することができる。	歴史的分野	67.5	3.6
	25		3 院政の権力	院政が権力をもった理由について、資料から読み取り、考察することができる。	歴史的分野	12.6	18.9

特徴の見られた問題例（中学校 2年 社会）

A問題 ② 3(2) 正答率が低かった問題

- 3 中世の日本について、後の(1)～(5)の問いに答えなさい。
- (3) 資料1の下線部②（六波羅探題）の設置と関係のある「承久の乱」が起こった原因について、適切な内容を、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
- ア 朝廷が、勢力を回復しようとしていたから。
 - イ 天皇と上皇が政治の実権をめぐって争っていたから。
 - ウ 実力のある者が、上の身分の者に打ち勝つことが多くなったから。
 - エ 天皇の没後、あとつぎをめぐって争いが起こったから。

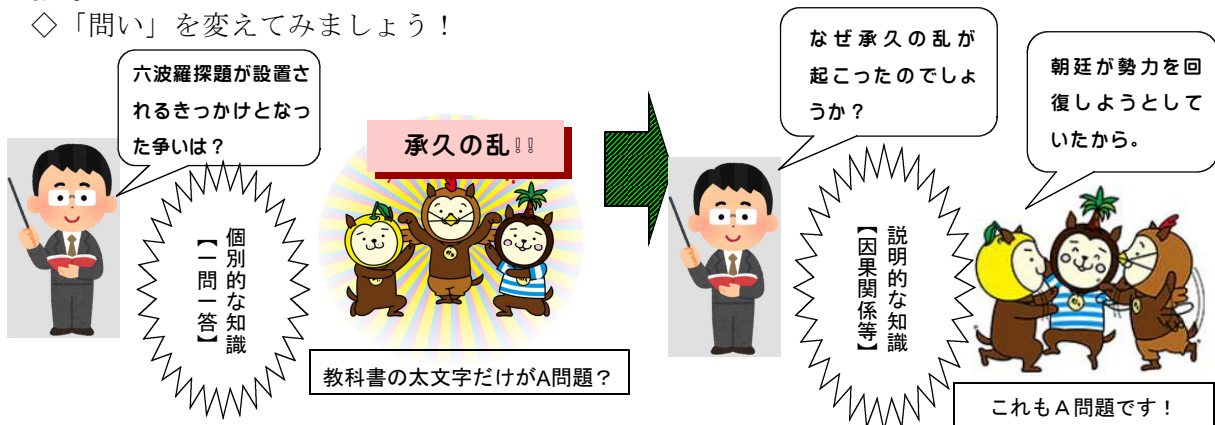
ねらい	承久の乱の原因について理解している。	正答	ア	平均正答率(%)	27.9
				無解答率(%)	1.3

☆分析

歴史的分野においては、中世の日本（46.0%）が、古代までの日本（64.8%）よりも大きく下回った。武家政治が成立し、どのように推移していったかが、十分、理解できていなかったのではないかと考えられる。また、社会的事象を因果関係やつながりを踏まえた上で、理解することが不十分だったのではないかと考えられる。

☆指導のポイント

◇「問い」を変えてみましょう！



B問題 ① 1 正答率が低く、無解答率が高かった問題

1 花子さんは、世界のさまざまな地域の調査学習で、アフリカに関する資料1と2を見つけ、アフリカに興味をもち、調べることにしました。後の1、2の問いに答えなさい。

1 資料1と2から、花子さんがもった疑問について、資料3と4をもとに、仮説の **A** と **B** に入る適切な内容を答えなさい。

1 花子さんは、世界のさまざまな地域の調査学習で、アフリカに関する資料1と2を見つけ、アフリカに興味をもち、調べることにしました。後の1、2の問いに答えなさい。

1 資料1と2から、花子さんがもった疑問について、資料3と4をもとに、仮説の **A** と **B** に入る適切な内容を答えなさい。

<p>資料1 アフリカで中国の企業が建設した鉄道 (2014年)</p> <p>大西洋岸からアフリカのコンゴ民主共和国まで、アンゴラを横断する重要な鉄道である。内戦で破壊されていたが、中国の支援を受けて復旧した。総工費 18.3 億ドル (約 1875 億円)。</p>	<p>資料2 アフリカへの中国の支援 (2015年)</p> <p>中国アフリカ協力フォーラム首脳会議で、中国の習近平国家主席が、今後3年間にアフリカ支援 600 億ドル (約 7 兆 3600 億円) を拠出すると表明した。</p>	<p>資料3 アフリカの鉱産資源の分布</p> <p>① 石油 ② 銅 ③ 鉄 ④ 金 ⑤ ダイヤモンド ⑥ 白金 ⑦ 鉛 ⑧ 亜鉛 ⑨ 錫 ⑩ 南アフリカ特産物</p>	<p>資料4 アフリカに関する新聞記事</p> <p>○○△△新聞</p> <p>アフリカで売れまくる中国製品</p> <p>アフリカの消費者は、今も中国製品を熱心に買っているが、それらは電子製品など以前よりも高度な工業製品だ。</p>
---	---	---	---

花子さんの疑問

なぜ、近年アフリカ諸国と中国との結び付きが強まっているのだろうか。

花子さんの仮説

中国がアフリカ諸国との結び付きを強めているのは、資料3と4より、アフリカの **A**、アフリカに **B** ためだろう。

ねらい	アフリカ州と中国との結び付きが強まっている理由について、アフリカの鉱業分布や中国製品に関する資料から、仮説を立てることができる。	平均正答率(%)	34.6
		無解答率(%)	13.8
正答	A (例) 豊富な鉱産資源を確保し		
	B (例) 工業製品を輸出して利益を上げる		

☆分析

資料3からアフリカに多くの鉱産資源があることを読み取り、工業を発展させるには、鉱産資源が必要なことを理解できていなかったのではないか。

資料4からアフリカの消費者の生活が豊かになり、多くの中国製品を買い入れるようになったことに気付けなかったのではないか。

☆指導のポイント

◇ 問いを工夫してみましょう！

生徒の見方・考え方を働かせる
ためにも問いが重要です。



① 課題把握

動機付け (学習問題の設定)

ある社会的事象を提示し、生徒から疑問や気付きを引き出し、課題意識を醸成させる。

資料1・2「アフリカと中国に関する資料」より

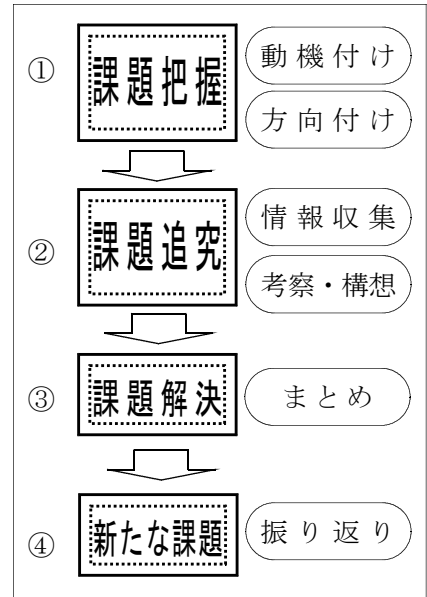
【学習問題】

なぜ、近年アフリカ諸国と中国との結びつきが強まっているのだろうか。

方向付け (課題解決の見通し)

これまでの既習事項や資料をもとに、予想や仮説を立てさせる。

中国がアフリカを支援するのは、アフリカには中国にとって利益になるものがあるのだろう。



【課題解決を図る学習過程の展開】

② 課題追究

情報収集

資料を活用して調べさせる (課題解決に向けて、必要な資料の準備と提供)。

資料3「アフリカの鉱産資源の分布」

資料4「アフリカに関する新聞記事」

考察・構想

社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、話し合わせる (討論等)。

他にも、社会に見られる課題を把握して、解決に向けて構想し、話し合わせ (討論等)、複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて、選択・判断させる。

③ 課題解決

まとめ

考察したことや構想したことを踏まえて結論をまとめる。

中国がアフリカ諸国との結びつきを強めているのは、資料3よりアフリカの豊富な鉱産資源を確保して、資料4よりアフリカに工業製品を輸出して利益を上げるためである。

④ 新たな課題

振り返り

学習を振り返って考察する。

新たな問い (課題) を見出したり、追究したりする。

- ・ 今後、アフリカと中国の結びつきはどうなっていくのだろう。
- ・ 日本とアフリカの結びつきはどうなるのだろう。

5 中学校1年：数学

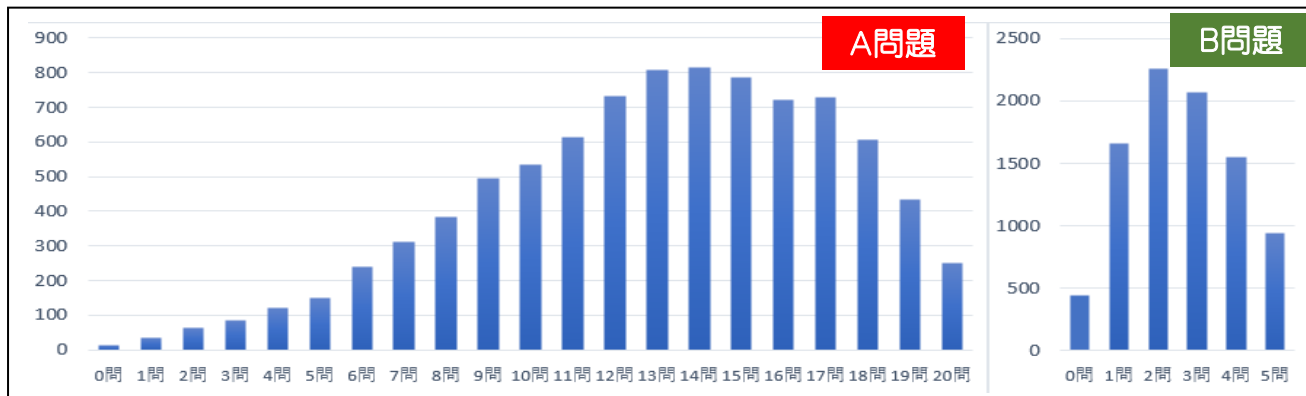
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**62.1%**である。「数量関係」については、平均正答率が**68.5%**と高くなっている。一方、「図形」については、平均正答率が**42.7%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**3**(4)と、平均正答率が低く無解答率が高かったB問題の**2**(1) (3) を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	数と計算	量と測定	図形	数量関係
		64.6		52.2		64.1	58.0

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率 (%)	無解答率 (%)
	番号	大問	中・小問					
A	1	1	(1)	3位数と2位数の加法	繰り上がりのある3位数と2位数の加法ができる。	数と計算	94.9	0.1
	2		(2)	小数の減法	末尾の位の揃っていない小数の減法ができる。	数と計算	80.1	0.4
	3		(3)	四則の混合した式の計算	()を用い、四則を混合した式の計算をすることができる。	数量関係	69.6	0.4
	4		(4)	分数の加法	異分母の分数の加法ができる。	数と計算	85.7	0.7
	5		(5)	分数の除法	分数同士の除法ができる。	数と計算	91.8	0.8
	6		(6)	小数の除法	除法における商、除数、余りの関係について、理解している。	数と計算	84.0	1.6
	7	2	(1)	速さ	道のりと時間から、速さを求めることができる。	量と測定	77.1	1.1
	8		(2)	素数	素数について理解している。	数と計算	13.6	3.9
	9		(3)	等しい比	比を簡単にして、等しい比を見つけることができる。	数量関係	55.0	0.6
	10		(4)	文字を用いた式	数量の関係を文字を用いた式で表すことができる。	数量関係	87.5	1.5
	11		(5)	公倍数	公倍数を用いて、噴水が同時に吹き上げる時刻を求めることができる。	数と計算	68.3	7.4
	12		(6)	百分率	百分率を用いて人数を求めることができる。	数量関係	51.5	7.1
	13	3	(1)	角柱の体積	三角柱の体積を求めることができる。	量と測定	65.5	2.1
	14		(2)	円柱の展開図	見取図と展開図を関連付けて、円柱の側面の横の長さを求めることができる。	量と測定	44.1	6.6
	15		(3)	図形の拡大と縮小	三角形を拡大したときのそれぞれの辺の長さを考えることができる。	図形	37.2	11.2
	16		(4)	図形の面積	正方形や円の面積の求め方を用いて、色の付いた部分の面積を求めることができる。	図形	27.6	19.4
	17	4	(1)	基準量	基準量、比較量、割合を図と対応させることができる。	数と計算	34.8	3.5
	18		(2)	図形の性質	傾いた正方形の面積を工夫して求めることができる。	図形	63.3	10.7
	19	5	(1)	柱状グラフ	度数分布表から柱状グラフに表すことができる。	数量関係	95.7	2.8
	20		(2)	比例のグラフ	比例の関係を表すグラフをかくことができる。	数量関係	65.3	8.4
B	21	1	(1)	起り得る場合	求め方の誤りを見つけ、正しいかき表し方を選ぶことができる。	数量関係	52.0	1.6
	22		(2)	起り得る場合	起り得る場合を落ちや重なりがないように分類、整理して、問題を解決することができる。	数量関係	49.9	4.8
	23	2	(1)	倍数と公倍数	公倍数の考えを用いて、大きな長方形にしきつめられる正方形の数を求めることができる。	量と測定	45.4	4.6
	24		(2)	比例と反比例	比例する2つの量を見つけることができる。	数量関係	90.1	2.2
	25		(3)	四則の混合した式や割合を用いた計算	3つの買い方から最も安く買える買い方を選択し、その理由を数や言葉を用いてかくことができる。	数と計算	23.4	10.4

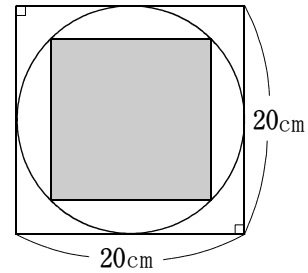
特徴の見られた問題例（中学校1年 数学）

A問題 3（4） 正答率が低かった問題

次の図の色をつけた部分は、正方形です。
この正方形の面積を求めなさい。

正 答	200 cm ²
-----	---------------------

ねらい	正方形や円の面積の求め方を用いて、色の付いた部分の面積を求めることができる。	平均正答率 (%)
		27.6%
		無解答率 (%)
		19.4%



☆分析

正答率が低かった理由として、以下の理由が考えられる。

① 補助線を引いたり、図形を移動したりして考えることができなかった。

② 正方形と書いているので、色をつけた部分をひし形ととらえることができず、1辺を求めようとした。

③ 円への苦手意識や、円またはひし形の面積を求める公式が定着しておらず、解くことができなかった。

また、無解答率が高かった理由としては、図形を組み合わせた問題への苦手意識から、問題に取り組みなかったと考えられる。

誤答としては、以下のようなものがあった。

ア 面積を求める場所を斜線部分と間違えている。

イ 目測した長さで計算している。

$10 \times 10 \times 3.14 = 314$
 $20 \times 20 = 400$
 $400 - 314 = 86$
 86cm^2

$10 \times 10 \times 3.14 = 314$
 $10 \times 10 = 100$
※目測で10cmとした計算
 $314 - 100 = 214$
 219cm^2

aの部分大きな正方形のおよそ半分の10cmや、15cmの長さを目測して計算する。
 10cmと捉えた生徒 $10 \times 10 = 100$ 100cm^2
 15cmと捉えた生徒 $15 \times 15 = 225$ 225cm^2

☆指導のポイント



実際に紙を切ったり貼ったりして、図形を動かす等の数学的活動を取り入れ、多様な考え方を引き出すことができるような課題解決型の授業が必要です。また、図形から情報を取り出し、知り得た情報を図形に書き入れる等、普段から図形に情報を書き込む指導が必要です。

心がけていきたいポイント→（授業改善の工夫 どんな授業をすることができるか 授業のアイデア）

この問題を学習課題とした授業展開として、次のような例が考えられます。その際のポイントは以下のようなが考えられます。

【授業の展開（例）】

- ① 既習事項の復習
- ② 学習課題の把握
- ③ 個人思考
- ④ グループ協議
- ⑤ 発表
- ⑥ まとめ
- ⑦ 振り返り

【ポイント】

- 必ず個人で考える時間を設定する。
- 教具やICT機器等を用意し、生徒が個人思考に活用できるようにする。
- グループ協議では、「他のグループから出ないようなやり方を考える。」も視点の1つにする。
- まとめ等で3年生になったら平方根に繋がることを示し、今後の学習に見通しをもたせる。
- 振り返りでは、説明を（他のグループから出されたものでもよい）隣の人にもう一度させる等、アウトプットする場を設定する。

授業のアイデア

視覚に訴える教具（図形を回転させたり、動かしたりできる教具）を授業で使いましょう。



黄色の正方形の面積を求める方法を考えましょう。



1辺の長さが分かれば求められます。

1辺は、大きい正方形の半分の10cmだよ。



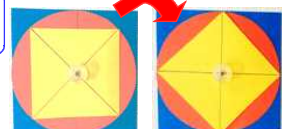
黄色の正方形を動かして、底辺をそろえると…



半分の長さにはならないね。



正方形を回転してみると、何か気づきませんか？



特徴の見られた問題例 (中学校1年 数学)

B問題 ②(1)、②(3) 正答率が低かった問題




真美さんと和夫さんは、文化祭で壁画をかくための大きなパネルをつくる係になりました。
 和夫さん：壁画は教室で展示するから、縦が240cm、横が360cmにしようと考えているんだ。
 真美さん：ずいぶん大きな壁画になるね。小さなパネルをつないで、和夫さんの考えているサイズをつくりましょう。小さなパネル1枚は、縦30cm、横30cmだそうよ。
 和夫さん：それなら、小さなパネルは(㉞)枚必要だね。

- (1) 和夫さんが考えている壁画のサイズである、大きなパネルをつくるためには、小さなパネルが何枚必要ですか。
 (㉞) に当てはまる数を求めなさい。

正 答	96 枚
-----	------

ねらい	公倍数の考えを用いて、大きな長方形にしきつめられる正方形の数を求めることができる。	平均正答率(%)	45.4
		無解答率(%)	4.6

- (3) 真美さんは、小さなパネルを買う店を選んでいきます。

 A店 ○ 1枚 30円 ※ 100枚以上買った方は、10%値引きします。	 B店 ○ 1枚 30円 ○ 10枚セット 280円 ※ 10枚セットを5組買うごとに100円値引きします。	 C店 ○ 1枚 30円 ○ 100枚セット 2600円
--	--	---

真美さんたちは、予備を含めてパネルを110枚買うことにしました。パネルは同じ店ですべて買うことにすると、A店、B店、C店のうち、いちばん安く買えるのはどの店か答えなさい。また、そのように考えたわけを、言葉や式を使って説明しなさい。

正 答	A店は、110枚買うと $110 \times 30 = 3300$ です。10%値引きだから、 $3300 \times 0.9 = 2970$ となり、代金は2970円です。 B店は、10枚セットを11組買うと、 $280 \times 11 = 3080$ です。5組買うごとに100円値引きされるので、200円値引きされて、 $3080 - 200 = 2880$ となり、代金は2880円です。 C店は、100枚セットと10枚を買うので、 $2600 + 300 = 2900$ となり、代金は2900円です。 だから、いちばん安いのは2880円のB店です。
B店	

ねらい	3つの買い方から最も安く買える買い方を選択し、その理由を数や言葉を用いてかくことができる。	平均正答率(%)	23.4
		無解答率(%)	10.4

☆分析

正答率が低かった理由として、以下の理由が考えられる。

- (1) について
- ① 文章の内容を読み取れず、状況をイメージできなかった。
 - ② 文章を図や絵等に表現できなかった。
- (3) について
- ① 説明に対する苦手意識や、モデル(例文)がないため何を書いてよいかわからなかった。
 - ② 説明だけでなく、情報の読み取りや計算の正確性等、多くの要素を含む問題であったため、いずれかのポイントでミスをしてしまい、正答できなかった。
 - ③ 10%引きなのに、10%を代金として計算する等、各店舗の情報からパネルの代金を正確に導くことができなかった。

☆指導のポイント



単元末に、その単元で学習した内容を総活用するような、課題解決型の授業を行いましょう。教科書の後ろに提示してある問題等を参考に、数学的な楽しさを味わえる問題を積極的に取り扱きましょう。

心がけていきたいポイント→(授業改善の工夫 どんな授業をすることができるか 授業のアイデア)

- (1) について
- 問題文からわかった情報を基に図(絵)にかく学習課題や、長い文章を読み取るような問題に日頃から触れさせましょう。
 - 視覚的に捉えることができるような教具を用意し、生徒がイメージできるようにしましょう。
 - 「わたこさんの鍵」のようにキーワードと数値だけを読み取るのではなく、文章全体を読ませて必要な情報を選択させる経験を積みませましょう。
- (3) について
- 日常生活や社会に関する事象をもとにした問題を、普段から取り上げるようにしましょう。
 - 誤った説明文を示し、どこが間違っているのか、何が足りないのかに気付かせるような授業も取り入れましょう。

★ 教えるべきところはきちんと教えて習熟の時間を十分確保することで学習内容の定着を図り、単元末に課題解決型の授業を展開できる時間を確保することが大切です。

6 中学校2年：数学

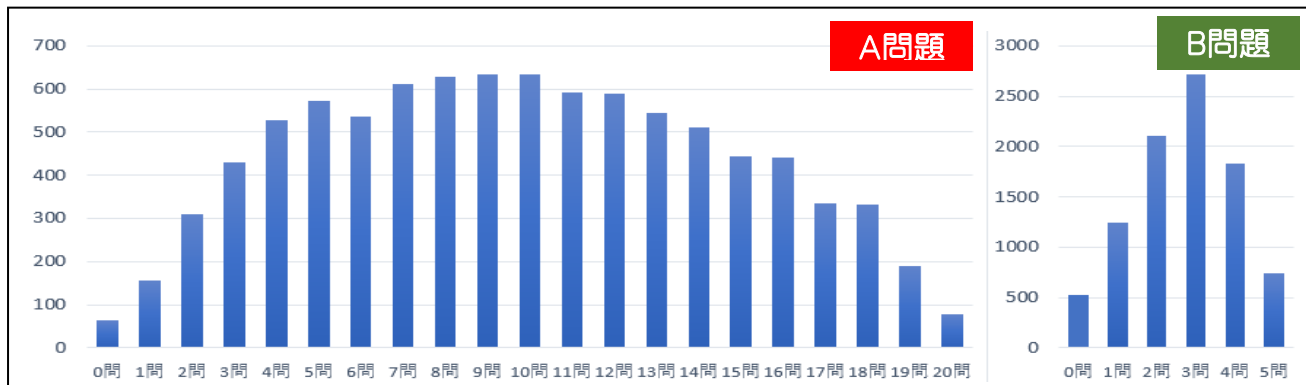
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**50.0%**である。「関数」については、平均正答率が**61.5%**と高くなっている。
 一方、「図形」については、平均正答率が**37.9%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**1** (5) と、無解答率が高く平均正答率も低かったA問題の**5** (1) ②を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	数と式	図形	関数	資料の活用
		49.1		53.8		52.4	37.9

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



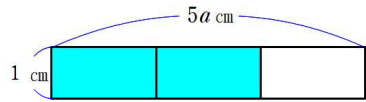
③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問	中・小問					
A	1	1	(1)	負の数の加法	負の数の加法の計算ができる。	数と式	88.9	0.2
	2		(2)	分数と負の小数の乗法	分数と負の小数の乗法の計算ができる。	数と式	48.6	6.2
	3		(3)	負の分数と小数の大小	負の分数と小数の大小を理解している。	数と式	63.0	0.5
	4		(4)	自然数	自然数を理解している。	数と式	43.6	0.5
	5		(5)	文字式の表し方	数量を文字に表すことができる。	数と式	13.5	11.4
	6	2	(1)	式の値	式の値を求めることができる。	数と式	59.1	6.6
	7		(2)	文字式と数量	文字式の意味を読み取ることができる。	数と式	61.6	1.4
	8		(3)	大小関係を表す式	数量の大小関係を不等式に表すことができる。	数と式	49.2	6.9
	9		(4)	比と比例式	条件から比例式をつくり、比例式を解くことができる。	数と式	32.9	9.6
	10		(5)	一次方程式の解き方	一次方程式を解くことができる。	数と式	54.1	9.8
	11	3	(1)	座標	座標平面上に点を取ることができる。	関数	78.7	1.4
	12		(2)	反比例の表	反比例の表から、 y の値を求めることができる。	関数	73.6	2.0
	13		(3)	変域	比例のグラフから、 x の変域に対する y の変域を求めることができる。	関数	32.2	11.7
	14	4	(1)	垂線の作図	直線上にない点から垂線を引くことができる。	図形	43.9	12.3
	15		(2)	おうぎ形の中心角	円錐の展開図からおうぎ形の中心角を求めることができる。	図形	48.8	16.5
	16	5	(1)1	2直線の位置関係	空間における直線のねじれの位置を理解している。	図形	54.1	2.0
	17		(1)2	立体の体積	三角錐や立方体の体積を要素として、他の立体の体積を求めることができる。	図形	8.8	23.0
	18		(2)	立体の表面積	回転体としてできる円柱の表面積を求めることができる。	図形	33.7	12.9
	19	6	(1)	度数分布表	度数分布表に表される数値(度数、相対度数)について理解している。	資料の活用	57.6	6.9
	20		(2)	代表値	度数分布表における中央値を求めることができる。	資料の活用	36.5	16.5
B	21	1	(1)	方程式の利用	与えられた条件から、表を完成することができる。	数と式	82.2	5.8
	22		(2)	方程式の利用	与えられた条件をもとに、数量の関係を見つけることができる。	数と式	55.9	10.6
	23		(3)	方程式の利用	方程式を利用して、説明することができる。	数と式	28.7	20.2
	24	2	(1)	ヒストグラム	ヒストグラムから資料の様子を読み取ることができる。	資料の活用	85.9	3.4
	25		(2)	代表値(理由)	ヒストグラムから得られる資料の傾向を根拠に、理由を説明することができる。	資料の活用	16.1	19.1

特徴の見られた問題例 (中学校2年 数学)

A問題 ① (5) 正答率が低かった問題

次の図のように、縦1cm、横5a cmの長方形を3等分したとき、図の色をつけた部分の面積を a を用いた式で表しなさい。



正答	$\frac{10a}{3} \text{ cm}^2$
----	------------------------------

ねらい	数量を文字に表すことができる。	平均正答率 (%)	13.5
		無解答率 (%)	11.4

☆分析

本設問は、数量の関係や法則などを、文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表す問題である。平均正答率は13.5%、無解答率11.4%であり、75.1%の生徒が誤答となっている。その原因として、数量関係を正しく捉えていても、 $\frac{5a}{3} \times 2$ 、 $5a \times \frac{2}{3}$ と約束に従って表すことができていることや、数量関係を正しくとらえていないことがうかがえる。

無解答率が高かった理由としては、全体の面積と色をつけた部分の面積の関係性が捉えられないことや、横の長さが5a cmであることから、5aを3等分するという形式的な処理が行えないことが考えられる。誤答例としては、 $\frac{5a}{3}$ 、 $\frac{15a}{2}$ が挙げられる。これらは、「等分」という表現から3でわっただけで終わったり、小数倍、分数倍の概念が定着しておらず、 $\frac{2}{3}$ 倍を $\frac{2}{3}$ でわったりしたと考えられる。

平成29年度A問題①(5)では、基準量を考えさせ、分数倍を扱う問題が出題されており、平均正答率10.9%、無解答率6.9%と、同様の特徴が見られました。このことから、文字を使った式の表し方や、分数倍を用いて数量関係を文字に表すことに課題があることがわかります。



平成29年度A問題①(5)

赤いテープと白いテープの長さについて、次のことがわかっています。

赤いテープの長さは a cm です。
赤いテープの長さは、白いテープの長さの $\frac{2}{3}$ 倍です。

白いテープの長さは、何cmですか。 a を用いた式で表しなさい。

☆指導のポイント



- ① 文字式の表し方を学習した後は、「文字を使って式に表すこと」＝「約束に従って式に表すこと」をしっかりと押さえることが大切です。
- ② 事象における数量の関係や法則などを見いだして文字式で表すことができるようになるためには、具体的な数や言葉を使った式や図を利用して数量の関係を捉え、段階的に文字式に表す活動を取り入れることが大切です。
- ③ 文字式の計算が確実にできるようにするためには、計算法則を確認するだけでなく、数量の概念を押さえ、式の意味を読み取る活動を取り入れることが大切です。

心がけていきたいポイント→(授業改善の工夫 どんな授業をすることができるか 授業のアイデア)

【授業の展開 (例)】

- (1) 問題を提示し、題意をつかませる。
- (2) 小学校での学習を振り返らせ、具体的な数を使った問題を考えさせる。
① $\square \div 3 = \triangle$ $\triangle \times 2 = \circ$ ② $\square \times \frac{2}{3} = \circ$
- (3) (2)の考え方をもとに問題に取り組みさせる。
- (4) 文字を使った式でも、約束に従って表すことで同意の式になることに気付かせる。
- (5) 文字に値を代入して、正しく処理できているかを確認めさせる。



どのように考えて答えを求めたかを、『図などを指し示しながら、ペアの生徒に説明する』ような活動を取り入れるようにしましょう。

*導入で生徒に考えさせてみては…?

5分の3mが正しく示されているのは、A、B、Cのどの図でしょうか？

A

B

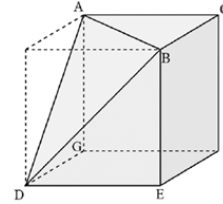
C

5分の3は、5つに分けた3つ分だけど、もともとなる数が3mだから…

特徴の見られた問題例 (中学校2年 数学)

A問題 ⑤(1)② 無解答率が高く、正答率も低かった問題

次の図のように、1辺4cmの立方体から三角錐を切り取ってできた立体があります。この立体の体積を求めなさい。



正答	$\frac{160}{3} \text{ cm}^3$
----	------------------------------

ねらい	三角錐や立方体の体積を要素として、他の立体の体積を求めることができる。	平均正答率 (%)	8.8
		無解答率 (%)	23.0

☆分析

本設問は、見取図から必要な情報を読み取り、三角錐や立方体の体積から、他の立体の体積を求める問題である。平均正答率 8.8%、無解答率 23.0% であり、その原因として以下の2つが考えられる。

- ① 見取図から、体積を求めるために必要な情報を読み取ることができなかったこと。
- ② 複数の立体を組み合わせて体積を求める経験が乏しいことから、解答を導くことができなかったこと。

三角錐の体積を求める問題については、平成28年度みやざき学習状況調査B問題②②では、水槽を傾けたときに残っている水の体積に関する問題、平成29年度みやざき学習状況調査A問題⑤②では、三角錐の展開図から、その体積を求める問題が出題されており、いずれも無解答率が高く、平均正答率が低い結果となっている。これらのことから、空間図形における辺や面の位置関係や角度や長さを正しく捉え、図形の計量について習熟を図っていくことが必要である。

【平成28年度みやざき学習状況調査B問題②②】

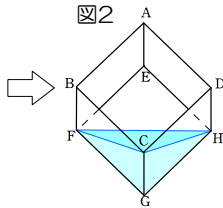
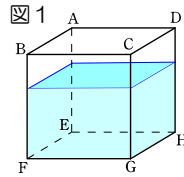
【平成29年度みやざき学習状況調査A問題⑤②】

はるかさんは、立方体の形をした水槽に金魚を飼っています。水槽の水が汚れてきたので、一部の水を残して水を入れ替えようと考えています。

次の図のように、三角錐の展開図があります。この三角錐の体積を求めなさい。

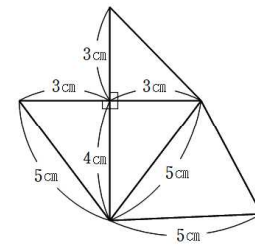
図1は、3分の2まで水が入っている。

頂点Cから静かに水をこぼし、頂点C、F、Hが水平になったときに止める。



(1) (省略)

(2) 図2のように、水槽に残っている水の体積は、図1の水槽に入っている水の体積の何倍になるか求めなさい。



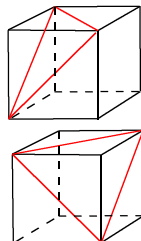
☆指導のポイント



- ① 空間における直線や平面の位置関係を理解できるようにするために、立体の模型等を用いて、様々な方向や視点から空間図形を観察する場面を設定することが大切です。
- ② 見取図の特徴を理解し、必要な情報を読み取ることができるようにするために、見取図と空間図形を対応させながら、見取図の特徴を実感を伴って理解できるようにすることが大切です。
- ③ 問題解決に必要な辺の長さや角度を展開図や見取図から正しく捉え、計量する力を身に付けさせることが大切です。

心がけていきたいポイント→(授業改善の工夫)

右の図のような立方体の見取図を使い、様々な方向から立体を観察し、辺や面の位置関係や辺の長さ、角の大きさを確かめたり、表面積や体積を求めたりするなどの学年に応じた指導を行いましょう。

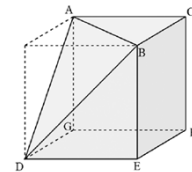


右上の写真のような透明の立体模型を使うと、生徒が多角的に立体を見ることができ、理解の助けになります。プラバンとゼロハンテープで簡単に作れますよ！

どんな授業をすることができるか 授業のアイデア)

【考えられる学習問題】

高校入試問題等の活用



右の図は、立方体を辺AB、辺BD、辺ADで切り取り、2つの立体に分けたものである。

- (1) 三角形ADBの名称を答えなさい。
- (2) 切り取った立体H-ABDと、切り取ってできた立体ABC-DEFGの体積比を求めなさい。
- (3) 切り取った立体H-ABDにおいて、△ADBを底面とするときの立体の高さを求めなさい。



学力調査や入学試験問題に扱われている空間図形の問題を用いて、図形を見る目を育てましょう。

7 中学校1年：理科

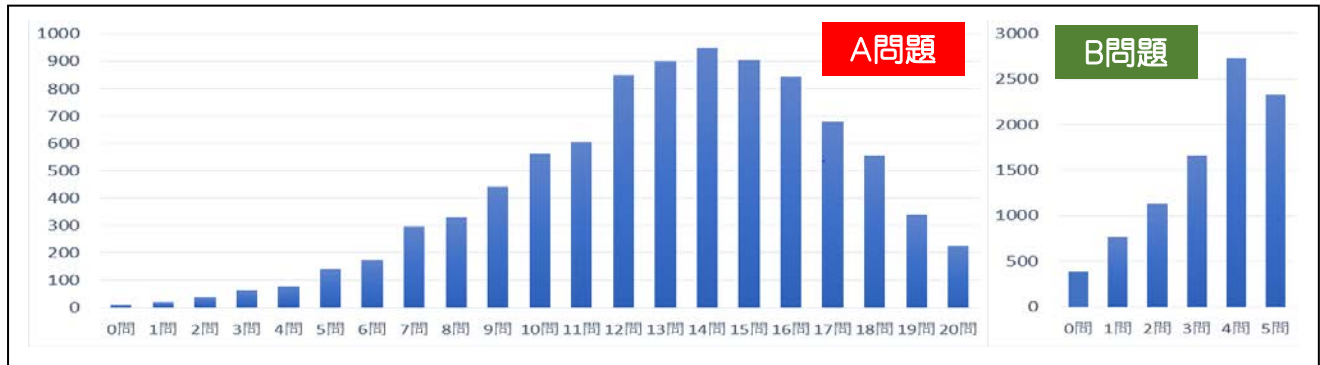
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**66.0%**である。「エネルギー」については、平均正答率が**77.5%**と高くなっている。一方、「地球」については、平均正答率が**47.1%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**33**と**53**、無解答率が高かったB問題の**21**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	生命	地球	エネルギー	粒子
		65.5		67.9		67.6	47.1

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率 (%)	無解答率 (%)	
	番号	大問	小問						
A	1	1	ア	ものが燃えるときの空気の変化	ものが燃える前後の空気の性質の変化から、空素を指摘できる。	物質・エネルギー(粒子)	80.7	0.6	
	2		イ	ものが燃えるときの空気の変化	ものが燃える前後の空気の性質の変化から、二酸化炭素を指摘できる。	物質・エネルギー(粒子)	88.4	0.7	
	3	2		酸素中での燃え方	酸素には、ものを燃やすはたらきがあることを理解している。	物質・エネルギー(粒子)	68.7	0.4	
	4	2	1	メスシリンダー	メスシリンダーを指摘できる。	物質・エネルギー(粒子)	45.4	7.6	
	5		2	メスシリンダーの使い方	メスシリンダーの使い方を身に付けている。	物質・エネルギー(粒子)	75.4	0.3	
	6	3	1	①② 天気の変化のきまり	雲の動きと天気の変化の仕方を理解している。	生命・地球(地球)	51.2	0.5	
	7		2	天気の変化の予想	天気の変化を雲画像から予想することができることを理解している。	生命・地球(地球)	57.7	0.4	
	8		3	台風の動きと天気の変化	台風の進路による天気の変化や降雨について理解している。	生命・地球(地球)	27.3	0.4	
	9	4	1	ア 空気と水の温度と体積	空気や水は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わることを理解している。	物質・エネルギー(粒子)	84.1	1.5	
	10		イ	空気と水の温度と体積	空気や水は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わることを理解している。	物質・エネルギー(粒子)	83.3	1.4	
	11	2		温度による金属の体積の変化	金属は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わることを理解している。	物質・エネルギー(粒子)	60.1	0.6	
	12	1		方位	方位を正しく指摘できる。	生命・地球(地球)	49.0	0.5	
	13	5	2	月の動き	月の位置が時間の経過に伴って変わること理解している。	生命・地球(地球)	64.8	0.6	
	14		3	月の形の見え方	月は日によって形が変わって見えることを理解している。	生命・地球(地球)	32.6	0.5	
	15		4	方位磁針の使い方	方位磁針の使い方を身に付けている。	生命・地球(地球)	46.7	1.7	
	16	6	1	日光とでんぶんのでき方の関係	一晩おいをした葉には、次の日の朝にでんぶんがないことを推論できる。	生命・地球(生命)	55.8	0.8	
	17		2	日光とでんぶんのでき方の関係	植物の葉に日光が当たるとでんぶんができることを理解している。	生命・地球(生命)	89.1	1.9	
	18	1		コンデンサーに蓄えた電気の利用	電気は蓄えることができることを理解している。	物質・エネルギー(エネルギー)	87.4	1.3	
	19	7	2	X	コンデンサーに蓄えた電気の利用	ハンドルを回す回数を変えると、明かりがつく時間に違いがあることを理解している。	物質・エネルギー(エネルギー)	85.5	1.1
	20		3	Y	コンデンサーに蓄えた電気の利用	コンデンサーにつなげるものを変えると、明かりがつく時間に違いがあることを理解している。	物質・エネルギー(エネルギー)	77.9	1.2
B	21	1	1	人の体のつくりと働き	予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。	生命・地球(生命)	43.9	0.5	
	22		2	人の体のつくりと働き	人の消化についての実験を構想する時の、適切な条件を指摘できる。	生命・地球(生命)	81.5	0.5	
	23	1		振り子の運動	実験の結果の違いから、実験方法を再検討し、適切でなかった理由を説明できる。	物質・エネルギー(エネルギー)	68.0	5.9	
	24	2	2	振り子の運動	実験の結果を分析、解釈し、学習問題に対して適切な結論を指摘できる。	物質・エネルギー(エネルギー)	79.6	2.1	
	25		3	振り子の運動	実験でわかったことを、おもちゃづくりに適用し、条件に合った作り方を説明できる。	物質・エネルギー(エネルギー)	66.5	5.0	

特徴の見られた問題例 (中学校1年 理科)

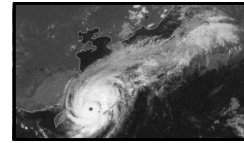
A問題 ③ 3 正答率が低かった問題

3 まとめ2は、図2のような台風についてまとめたものです。まとめ2の中の(①)、(②)に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、下のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

図2
9月16日

〔まとめ2〕

台風は、ふつう、日本のはるか(①)の海上で発生し、北へ向かって進むことが多い。また、台風が近づいたところでは、強い風がふいたり、(②)時間に大雨が降ったりして災害が起こることもある。



- ア ①：北 ②：長い イ ①：北 ②：短い
ウ ①：南 ②：長い エ ①：南 ②：短い

ねらい	台風の進路による天気の変化や降雨について理解している。	平均正答率(%)	27.3
正答	エ	無解答率(%)	0.4

☆分析

近年の情報端末等の普及や情報通信網の発達により、台風の情報発生から日本を通過して消滅するまでの長期間にわたり詳細に得られる。そのため、台風は長い時間雨を降らせると認識する生徒が多いのではないかと考えられる。さらに、近年の特殊な気象状況(局地的大雨等)では、より短い時間に激しい雨が降る状況がある。これらのことから、台風が近付いたところでは相対的に長い時間雨を降らせると認識する生徒が多いのではないかと考えられる。

☆指導のポイント

台風の特徴である、通常の雨よりも「激しく降る」ようすや、時間の経過とともに降雨量に変化することを、雲画像と雨量変化のグラフを関連付けたりICTを活用したりして、視覚的に提示するなどの指導方法の工夫が考えられる。その際、対象とする地点を例えば「宮崎市」等、ある限られた地点に絞って見ていくことが大切である。

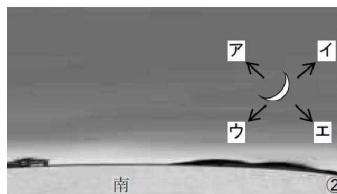
台風は低気圧の一種であり移動に伴って天気に変化することから、雲画像により台風と局地的大雨との違いを比較しながら、降雨時間の長短を示すことが考えられる。

A問題 ⑤ 3 正答率が低かった問題

3 月を毎日観察すると、見え方が少しずつ変わっていき、図2の半月のように見えました。この日は、図1から約何日後ですか。最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

図1

図2



- ア 約5日後 イ 約10日後
ウ 約15日後 エ 約20日後

ねらい	月は日によって形が変わって見えることを理解している。	平均正答率(%)	32.6
正答	ア	無解答率(%)	0.5

☆分析

授業において、月は新月から約15日で満月になることを学習しているため、問いに対する条件をしっかりと把握しないまま、ウを選択したのではないかと考えられる。

授業では、太陽と月の位置関係による月の形の見え方については、モデルやICTの活用を図りながら丁寧な指導が行われているが、時間(日数)と月の形の見え方の関係については十分な指導が行われていないことが考えられる。

☆指導のポイント

教材の特性から授業の中で毎日観察することが難しいため、月の形の見え方を継続して観察させる場合は宿題として行わせることが想定される。その際、時間・方位・月の形を関連付けて確実に観察できるように、例えば観察する時刻を「午後9時」に決め、同じ時刻で月の見える方位、形がどのように変化するかを、日を追って継続して観察させることが考えられる。

また、家庭で行う観察記録と、授業で行うモデルやICTを活用した思考とを関連付けて指導を行うことで、実感を伴った理解につながると考える。

特徴の見られた問題例 (中学校1年 理科)

B問題 ② 1 無解答率が高かった問題

【学習問題】

ふりがが1往復する時間は、何によって変わるのだろうか。

【予想】

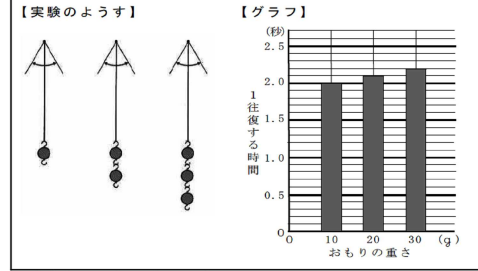
良夫さんの予想	}	・・・ おもりの重さによって変わるだろう。
幸恵さんの予想		
良江さんの予想		・・・ ふれはばによって変わるだろう。
浩一さんの予想		・・・ ふりこの長さによって変わるだろう。

【実験計画】

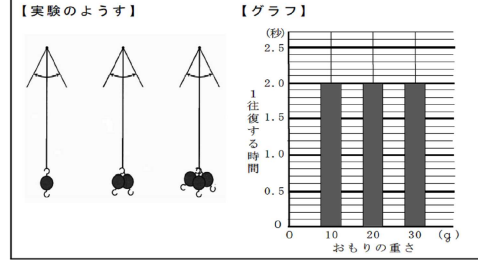
変える条件	同じにする条件
おもりの重さ	ふりこの長さ、ふれはば

- ① 10gのおもりを1個取りつけて、ふりがが1往復するときの時間を調べる。
- ② おもりを2個、3個に変えて、①と同じように、ふりがが1往復するときの時間を調べる。
- ③ おもりの重さとふりがが1往復するときの時間の関係をグラフに表す。

<良夫さんたちのグループ>



<幸恵さんたちのグループ>



1 2つのグループとも、おもりの重さを変えて実験を行いました。しかし、それぞれのグループのグラフを比べると、少し違っていました。そこで、それぞれのグループの実験のようすを確認したところ、良夫さんたちのグループの実験は、適切でなかったことがわかりました。良夫さんたちのグループの実験が適切でなかった理由を、実験計画にある条件をふまえて説明しなさい。

ねらい	実験の結果の違いから、実験方法を再検討し、適切でなかった理由を説明できる。	平均正答率 (%)	68.0
正答	(例) おもりを縦につなげていたので、同じにする条件の、ふりこの長さが変わってしまったから。	無解答率 (%)	5.9

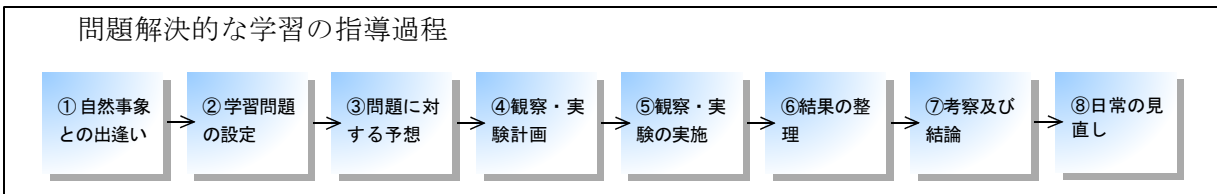
☆分析

平均正答率は高かったものの、無解答率が他の設問と比較して高かった問題である。解答が記述式であるため、書くことに初めから抵抗をもつ生徒や、日頃の授業において自分の考えを書くことに慣れていないためにどのように表現すればよいかわからない生徒により、無解答率が高くなったことが考えられる。

また、約25%の生徒は記述したものの誤答となっている。図から、おもりを縦につないだことによりふりこの長さが変わっていることがわかる。しかし、「おもりのつなぎ方が違うから」といった、科学的な視点（ふりこの長さが変わっている）が不足していることが考えられる。

☆指導のポイント

科学的な思考力や表現力を育成し、記述式の問題に対して科学的根拠をもって自分の考えを書く力を身に付けさせるためには、日頃の授業の中で問題解決的な学習となる指導過程を積極的に取り入れていくことが大切である。



このとき、各場面において自分の考えを表現する際、科学的な言葉を用いることを意識させたり、用いることが難しい生徒には説明の際のポイントとなるキーワードを提示したりするなど、学習で身に付けた科学的な言葉を使って説明する指導を繰り返し行うことが大切である。

また、学習したことを生かしたものづくり活動を取り入れることで、実感を伴った理解につながると考える。

8 中学校2年：理科

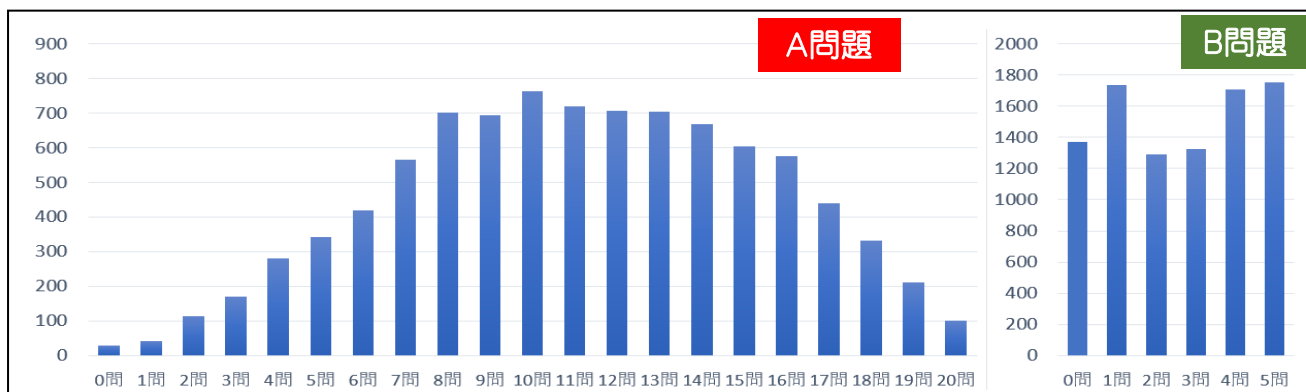
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**54.9%**である。「エネルギー」については、平均正答率が**66.2%**と高くなっている。一方、「粒子」については、平均正答率が**50.4%**と低い。特徴の見られた問題では、正答率が低かったA問題の**6**1と、平均正答率が低く、無解答率が高かったA問題の**7**3、B問題の**2**1、2を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	生命	地球	エネルギー	粒子
		55.7		52.0		54.0	53.8

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



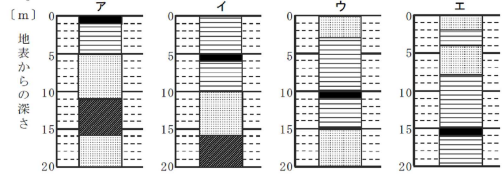
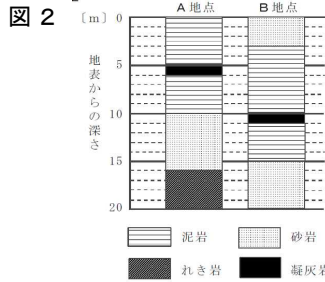
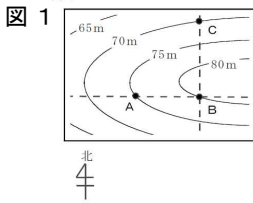
③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号				出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)	
	番号	大問	中間	小問						
A	1	1	1		光合成に伴う二酸化炭素の出入り	植物が光合成を行ったときに、二酸化炭素が出入りしていることを理解している。	生命	68.6	0.2	
	2		2		対照実験	対照実験を指摘できる。	生命	61.4	12.3	
	3		1		気体の集め方	アンモニアの特性に応じた捕集法を指摘できる。	粒子	55.5	5.6	
	4	2	2		ガスバーナーの使い方	ガスバーナーの適切な使い方を身に付けている。	粒子	46.9	0.6	
	5		3		アンモニアの性質	アンモニアが水に溶けたときの性質とそれを調べる方法を理解している。	粒子	55.4	2.4	
	6	3	1		双眼実体顕微鏡の使い方	双眼実体顕微鏡の適切な使い方を身に付けている。	地球	52.6	0.6	
	7		2	記号	安山岩のつくり	安山岩のつくりを理解している。	地球	65.8	1.4	
	8		名称	安山岩のつくり	斑状組織を指摘できる。	地球	47.5	12.7		
	9	3			花崗岩のでき方	花崗岩のでき方を理解している。	地球	52.0	0.7	
	10	4	1		光の反射	光の反射の規則性を理解している。	エネルギー	54.9	0.6	
	11		2		光の屈折	屈折角を指摘できる。	エネルギー	46.0	1.0	
	12		3		全反射	全反射を指摘できる。	エネルギー	84.6	4.2	
	13	5	1		力の大きさとばねののびの関係	力の大きさとばねののびの関係を表したグラフを適切に読み取ることができる。	エネルギー	60.5	4.5	
	14		2		フックの法則	フックの法則を指摘できる。	エネルギー	85.2	4.7	
	15	6	1		地層の広がり	地層の重なり方や広がり方の規則性を見出すことができる。	地球	41.0	1.5	
	16		2		しゅう曲	しゅう曲を指摘できる。	地球	64.0	9.8	
	17	7	1	ア		質量パーセント濃度	質量パーセント濃度の公式に適切な数値を当てはめることができる。	粒子	46.2	6.3
	18			イ		質量パーセント濃度	質量パーセント濃度を求めることができる。	粒子	33.4	8.7
	19		2			再結晶	再結晶を指摘できる。	粒子	80.0	7.3
	20			3		溶解度曲線	溶解度曲線を表したグラフを適切に読み取ることができる。	粒子	11.9	10.6
B	21	1	1		プラスチックの区別密度ともの浮き沈み	プラスチックの密度から、プラスチックの浮き沈みを判断することができる。	粒子	72.9	1.7	
	22		2		プラスチックの区別密度ともの浮き沈み	プラスチックと液体の密度から、プラスチックの浮き沈みを判断し、その理由を説明できる。	粒子	60.0	3.3	
	23		3		プラスチックの区別密度ともの浮き沈み	プラスチックと液体の密度から、プラスチックの浮き沈みを判断し、その理由を説明できる。	粒子	41.4	14.3	
	24	2	1		コケ植物光合成	予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想し、説明できる。	生命	40.7	15.6	
	25		2		コケ植物光合成	ハイゴケの仮根の吸水についての実験から、学習問題を適切に設定することができる。	生命	45.2	11.8	

特徴の見られた問題例 (中学校2年 理科)

A問題 ⑥ 1 正答率が低かった問題

1 図1のC地点のボーリングによって得られた試料を柱状図に表していると考えられるものはどれですか。最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。



ねらい	地層の重なり方や広がり方の規則性を見出すことができる。	平均正答率 (%)	41.0
正答	ア	無解答率 (%)	1.5

☆分析

理科では、等高線をもとに地形をイメージして各地点の高低差をとらえる学習活動が少ないため、等高線と地形を関連付けることが難しい生徒が多いのではないかと考える。さらに、A・B各地点の高さと地面の下に広がる地層の関係について、地形図と柱状図を関連付けて立体的な広がりとしてイメージすることが難しい生徒が多いのではないかと考える。

☆指導のポイント

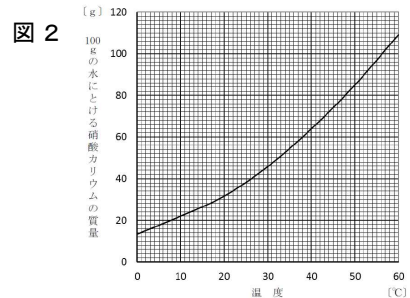
各地点で見られる地層（露頭）は、各層が立体的に積み重なって広がっているものの一部を見ていたというイメージをもたせることが大切である。そのためには、例えば、寒天を使ったモデル実験を行ったり、柱状図を地上からの深さではなく同じ標高で並べ直した図にしたりして地層の広がりや傾きをイメージさせる等、具体物や具体的な数値をもとに考えさせるような学習活動を行うことが大切である。

A問題 ⑦ 3 正答率が低く、無解答率が高かった問題

【実験】

- ① 硝酸カリウムを80gはかりとり、図1のように50℃の水100gにすべて溶かす。
- ② ①の水溶液を20℃まで冷やして、中のようすを観察する。

3 図2のグラフは、硝酸カリウムの溶解度と温度の関係を表したものです。実験の②のとき、約何gの硝酸カリウムを結晶として取り出すことができるか、整数で求めなさい。



ねらい	溶解度曲線を表したグラフを適切に読み取ることができる。	平均正答率 (%)	11.9
正答	48g	無解答率 (%)	10.6

☆分析

図2のグラフから、水温20℃の溶解度は約32gであり、50℃の溶解度は約85gである。この問いでは50℃の水には80g溶かしているが、85gから32gを差し引いた生徒や、縦軸の1目盛りの読み誤りにより得られた数値が誤っていた生徒が多いのではないかと考える。

☆指導のポイント

水溶液に見られた現象をそのときのグラフ上の点と照らし合わせながら丁寧に説明する学習活動や、考察を行う際にグラフも活用するなど現象とグラフを関連付けて思考できるような学習活動を行うことが大切である。また、問題解決的な学習過程を通して体験した物質に関する事象を、科学的な用語と関連付けて説明する学習活動を行う等、科学的な用語の使用を意識した学習指導過程の工夫が大切である。

特徴の見られた問題例 (中学校2年 理科)

B問題 ② 1・2 正答率が低く、無解答率が高かった問題

1 清美さんは、実際に観察を行う前に、結果を見通すために、自分の予想が正しければ、どのような結果になるかを考えました。レポート1の清美さんの予想が正しければ、方法の(4)では、どのようなものが観察できると考えられますか。「葉緑体」という言葉を使って説明しなさい。

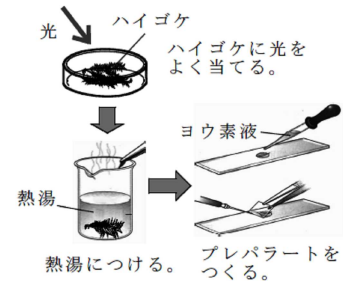
【レポート1の一部】

1 学習問題1
コケ植物に光を当てると、でんぷんができるのだろうか。

2 予想
はじめは、コケ植物は暗い場所に生えているので、光合成を行わないと思っていたけれど、葉緑体が見えたので、コケ植物も光合成を行い、でんぷんができると思う。

3 方法

- (1) しばらくの間、暗室に置いたハイゴケによく光を当てる。
- (2) ハイゴケを熱湯に短時間つけた後、スライドガラスにのせ、軽く水分をとる。
- (3) ヨウ素液を落とし、プレパラートをつくる。
- (4) プレパラートを顕微鏡で観察する。



ねらい	予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想し、説明できる。	平均正答率 (%)	40.7
正答	(例) 青紫色に染まった葉緑体が観察できる。	無解答率 (%)	15.6

2 清美さんは、疑問2について調べるために、学習問題2を設定しました。どのような学習問題を設定したと考えられますか。レポート2の [] に、適切な内容を入れなさい。

【レポート2】

1 学習問題2

6 結論
ハイゴケの仮根の部分からは、水はあまり吸収されない。

ねらい	ハイゴケの仮根の吸水についての実験から、学習問題を適切に設定することができる。	平均正答率 (%)	45.2
正答	(例) ハイゴケの仮根からは水が吸収されるのか。	無解答率 (%)	11.8

☆分析

1・2とも記述式の問題である。1では説明を行うに当たり、「どの部分」に「どのような変化」が見られるのかを記述することが必要であり、キーワードは葉緑体と青紫色である。この問いに対して「葉緑体が見える」や「青紫色に見える」等、キーワードを適切に使用した説明になっていない生徒が多いのではないかと考える。2では、実験結果から課題に正対した考察ができる力が十分身に付いていない生徒が多いのではないかと考える。

また、1の無解答率の約15%は、正答を得られなかった生徒の約1/4が何も書けなかったことを示している。日頃の授業において、自分の考えを書くことに慣れていないことが考えられる。

☆指導のポイント

年間指導計画において、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、問題解決的な学習過程を可能な限り取り入れることが大切である。その際、次のことを意識する必要がある。

- ① 生徒の主体的学習活動が前提であることから、生徒の実態(レディネス等)、生徒に身に付けさせるべき力(ゴールイメージ)を的確にとらえて学習指導過程をつくる。
- ② 予想をする場面を設定する際、予想に対する見通しを個人で考えるとともに、グループや全体で共有する時間を確保する。
- ③ 自分の考察を振り返ったり、他者の考察を協働で検討して改善したりする学習場面を設定する。その際、「考察が設定した課題に正対しているかどうか」に留意して検討するよう指導することが大切である。

9 中学校2年：英語

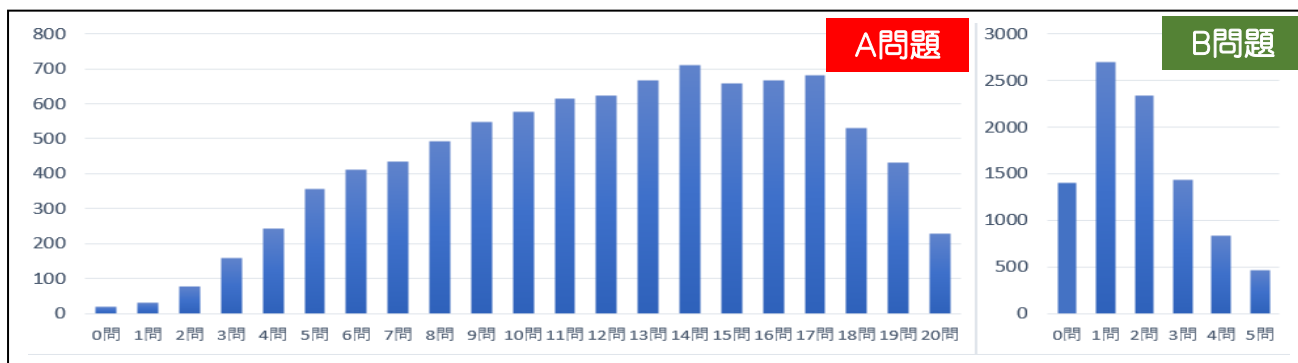
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**55.9%**である。「聞くこと」については、平均正答率が**64.6%**と高くなっている。一方、「書くこと」については、平均正答率が**43.4%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**6**3と、無解答率が高かったB問題の**1**2を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	聞くこと	読むこと	書くこと
		60.5		37.8		64.6

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

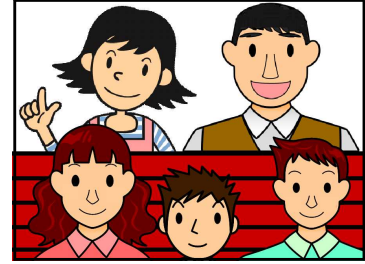
分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	正答率 (%)	無解答率 (%)	
	番号	大問						
A	1	1	No.1 場面に応じた質問に対する応答の理解	短い対話を聞いて、絵の内容に合う適切な応答をすることができる。	聞くこと	72.6	0.2	
	2		No.2 場面に応じた質問に対する応答の理解	短い対話を聞いて、絵の内容に合う適切な応答をすることができる。	聞くこと	75.8	0.3	
	3		No.3 場面に応じた質問に対する応答の理解	短い対話を聞いて、絵の内容に合う適切な応答をすることができる。	聞くこと	35.7	0.3	
	4	2	No.1 質問に対する応答の理解	質問を聞いて、適切な応答をすることができる。	聞くこと	76.4	0.3	
	5		No.2 質問に対する応答の理解	質問を聞いて、適切な応答をすることができる。	聞くこと	72.1	0.3	
	6		No.3 質問に対する応答の理解	質問を聞いて、適切な応答をすることができる。	聞くこと	36.0	0.3	
	7	3	No.1 身近な暮らしに関わる会話表現の理解	まとまりのある対話を聞いて、活動の時間を適切に聞き、答えることができる。	聞くこと	57.9	0.2	
	8		No.2 身近な暮らしに関わる会話表現の理解	まとまりのある対話を聞いて、話の概要を適切に聞き、答えることができる。	聞くこと	73.5	0.4	
	9		No.3 身近な暮らしに関わる会話表現の理解	まとまりのある対話を聞いて、活動場所を適切に聞き、答えることができる。	聞くこと	81.2	0.4	
	10	1	4	基本的な文法事項に関する知識・理解	現在進行形を理解し、適切に書くことができる。	書くこと	36.4	4.5
	11	2		基本的な文法事項に関する知識・理解	主語とbe動詞の組合せを理解し、適切に書くことができる。	書くこと	41.3	6.9
	12	3		基本的な文法事項に関する知識・理解	命令形を理解し、適切に書くことができる。	書くこと	73.1	9.3
	13	1(1)	5	言語の使用場面と表現の理解	短い対話文を読んで、場面に応じた適切な疑問詞を選ぶことができる。	読むこと	66.5	0.5
	14	1(2)		言語の使用場面と表現の理解	短い対話文を読んで、場面に応じた適切な代名詞を選ぶことができる。	読むこと	80.5	0.5
	15	2(3)		言語の使用場面と表現の理解	短い対話文を読んで、場面に応じた適切な依頼文を選ぶことができる。	読むこと	69.2	0.8
	16	1	6	対話文の内容理解	対話文を読んで、場面に応じた適切な前置詞を選ぶことができる。	読むこと	63.7	0.5
	17	2		対話文の内容理解	対話文を読んで、場面に応じた適切な疑問詞を書くことができる。	書くこと	62.8	4.1
	18	3		対話文の内容理解	疑問詞を含む英文の正しい語順を理解し、書くことができる。	書くこと	37.9	2.6
	19	4	5	対話文の内容理解	対話文を読んで、代名詞が指す内容を理解することができる。	読むこと	37.4	7.9
	20	5		対話文の内容理解	対話文を読んで、場面に応じた適切な英文を選ぶことができる。	読むこと	59.8	1.2
21	1	1		手紙の内容理解	手紙を読んで、英文を、内容に合う適切な場所に入れることができる。	読むこと	46.0	1.4
22	2	2	手紙の内容理解	手紙を読んで、内容に合う適切な英文を選ぶことができる。	読むこと	22.0	1.4	
23	2	3	対話文や資料の内容理解	対話文や資料から必要な情報を取り出し、適切なものを選ぶことができる。	読むこと	68.4	1.1	
24	1		対話文における条件英作文	対話文の内容に即して、自分の考えなどを英語で正しく書くことができる。	読むこと 書くこと	34.2	26.2	
25	2		対話文における条件英作文	対話文の内容に即して、自分の考えなどを英語で正しく書くことができる。	読むこと 書くこと	18.5	21.7	

特徴の見られた問題例（中学校2年 英語）

A問題 ⑥ 3 正答率が低かった問題

⑥ 次の対話文は、休み時間にたけし(Takeshi)が、ALTのブラウン先生(Mr. Brown)と会話をしている時のものです。下の1~5の問いに答えなさい。

Takeshi : Mr. Brown, this is a picture (①) my family.
 Mr. Brown : ② is this?
 Takeshi : It's my sister Mika.
 Mr. Brown : Is she a student?
 Takeshi : No, she works at an art museum.
 Mr. Brown : This is your brother, right?
 Takeshi : Yes, he is Akira. He is a high school student.
 Mr. Brown : Does he play any sports?
 Takeshi : Yes, he is good at soccer.
 Mr. Brown : ③ (sport / you / what / like / do) ?
 Takeshi : I like soccer too. We practice it together every day.
 Mr. Brown : That's great.
 Takeshi : How about you?
 Mr. Brown : I like winter sports. I'm from Canada. They are very popular ④ there.
 Takeshi : I see.



3 下線部③の()内の語を並べかえて、正しい英文にしなさい。ただし、文頭にくる文字も小文字になっています。

3	正答	What sport do you like?		
ねらい	疑問詞を含む英文の正しい語順を理解し、書くことができる。		平均正答率(%)	37.9
			無解答率(%)	2.6

☆分析

平均正答率が30%台という結果が示しているように、疑問詞 what を使った《表1》の定着率は高い傾向にあるが、《表2》については低い傾向がある。これは、中学校第1学年において、《表1》を先に学習し、それを活用する場面の方が多いためだと考えられる。

《表1》

Sunshine1 で出てくる英文	ページ
What do you study on Monday afternoon?	38
What do you have for breakfast, Kenta?	38
What do you usually do on Sunday, Yuki?	39
What do you do on a recycling day?	41

《表2》

Sunshine1 で出てくる英文	ページ
What sport do you like?	44
What color do you like?	60
What museums did Mike visit?	103
What color do you want?	106

☆指導のポイント



現在、小学校外国語教育において、どのような内容を学習しているか把握し、それを中学校の授業でも活用しましょう！

小学校外国語活動では、次のように学習しています。小学校の学習内容を振り返りながら、それを生かして生徒の習熟につなげていきましょう。

〈平成29年度まで〉

第5学年において、「What color do you like?」を、単元を通じたチャンツの中で練習する。
 (「Hi, friends! 1 Lesson 5 What do you like?」)

〈平成30・31年度〉

第3学年において、「What (sport) do you like?」を、単元を通して学習する。他の学年でも、慣れ親しみを深めるため、この単元の内容を生かして、新出表現につながりをもたせている。
 (「Let's Try! 1 Unit 5 What do you like?」)



教科書に出てくる頻度の少ない言語材料については、日々の授業の中で意識して、言語活動と効果的に関連付けた指導をしていきましょう！

【活動例1】 My Project 3をゴールとし、インタビュー項目の中に「What (～) do you (～)?」という表現や教科書に出てくる頻度の少ない言語材料を取り入れ、バックワードデザインを意識した授業づくりをしていく。

【活動例2】 「What (～) do you (～)?」などの表現を、クラスルーム・イングリッシュで使用する場面を増やしたり、毎時間のウォームアップとして繰り返したりする。

特徴の見られた問題例 (中学校2年 英語)

B問題 ① 2 正答率が低かった問題

① 次の英文は、アメリカに住むエマ(Emma)と、日本に住むくみ(Kumi)が、やり取りをした手紙です。下の1, 2の問いに答えなさい。

Tuesday, April 3, 2018

Dear Kumi,

How are you? I learned a lot about Japanese schools yesterday. They are very interesting. (①) I had two questions in the lesson.

In America, schools usually start in September. But Japanese schools start in April, right?

In our school, we don't have school uniforms. Does your school have them? (②)

Please answer my questions.

See you soon.

Your friend,
Emma

Thursday, April 12, 2018

Dear Emma,

Thank you for your letter. In Japan, schools start in April. Now I enjoy every lesson with new classmates.

In Japan, a lot of junior high schools have school uniforms. (③) My school's uniform is very cute and nice. So I like it very much.

We go to school five days in a week. We usually have six lessons at our school. But we only have five on Wednesdays. (④) How about your school? How many lessons do you have every day?

See you.

Your friend,
Kumi

2 手紙の内容に合っているものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア Emma studied about Japanese schools on Wednesday.
- イ Kumi had two questions about school uniforms.
- ウ Emma likes Kumi's school uniform very much.
- エ Kumi usually has twenty-nine lessons in a week.

2	正答	エ
---	----	---

ねらい	手紙を読んで、内容に合う適切な英文を選ぶことができる。	平均正答率 (%)	22.0
		無解答率 (%)	1.4

☆分析

平均正答率が22%の理由は、「手紙の形式に慣れておらず、差出人と受取人の関係がつかめていない」、「2通の手紙のつながりを読み取れていない」ということが考えられる。生徒の大半が、対話形式の英文には慣れているが、ある程度まとまった英文を読み取ることに不慣れであることが原因と予想されることから、普段の授業において、内容理解の活動を工夫する必要がある。

☆指導のポイント



本文の内容理解の流れは1つではありません。
何をできるようにさせたいかを考えて、本文の指導の流れや活動を工夫しましょう！

まとまった英文を読む力を身に付けさせるために、単元の新出表現等を前時までに全て学習させた後、その単元の本文をまとめて読ませてみましょう。また、初見の英文を読む力を身に付けさせるために、オーラルイントロダクションを行わずに、読む視点を与えて、本文を読ませてみましょう。また、本文の訳をしなくても、いろいろな方法で読み取らせることができます。

- 【活動例1】 ○ 本文の内容に合うように、絵を並べ替えたり、正しい絵を選んだりする。
○ 本文を1文ずつ短冊にし、正しく並べ替える。

- 【活動例2】 ○ 内容を理解する必要がある T-F や Q and A を行う。
(例) 第1学年 P.10-1 Mike visited the history museum on December 30. (F)



代名詞の使い方を意識して指導しましょう！

まとまりのある文章では、既出の名詞が代名詞に置き換えられます。内容を正しく理解させるためには、それぞれの代名詞が、誰・何を指しているのかを確認させることが重要です。また、教科書本文の Q and A において、代名詞を用いて答えさせることも大切です。

- (例) 第1学年 P.7-2 Q: What does Nick watch all the time?
A: He watches a mother orca and her babies.